Ⅲ 阪神・淡路大震災25年記念事業

震災の経験、教訓を風化させず、災害文化の醸成を目指し、県や関係機関等が、被害の抑制につながる知識、ノウハウ、技術を広く社会に伝える各種イベント等を実施した。

1 ひょうご安全の日推進県民会議主催事業（５事業）

事業名	実施時期等	実施場所	コンセプト	掲載頁
① 阪神・淡路大震災25年総合フォーラム	R1.6.30(日)	兵庫県公館	伝える	082
② 震災25年　新長田にぎわい交流祭	R1.9.28(土)	新長田駅南地区	伝える	084
③ 阪神・淡路大震災25年　ひょうご防災フェスタ	R1.11.30(土)	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス	活かす	085
④ 震災25年事業　自主防災組織元気！フォーラム	R1.12.7(土)	ラッセホール	備える	087
⑤ 阪神・淡路大震災25年キャンペーン	R1.5月～R2.3月	兵庫県内	忘れない	088
震災25年若者キャンペーンプロジェクト				
震災25年若者広報チーム「リメンバー117」				
阪神・淡路大震災25年ポスター・リーフレット				

2 ひょうご安全の日推進県民会議と関係機関が連携して実施した事業（15事業）

事業名	実施時期等	実施場所	コンセプト	掲載頁
⑥ 耐震リフォーム達人フォーラム	R1.10.2(水)、11.21(木)、11.25(月)	ラッセホール、豊岡市民会館、姫路労働会館	備える	090
⑦ 兵庫県広域防災センター実戦デモ	R1.10.27(日)	兵庫県広域防災センター	備える	092
⑧ 地域と未来をつなぐ“ひょうご基幹道路ネットワーク”シンポジウム	R1.10.29(火)、12.16(月)、12.18(水)	兵庫県公館、加古川プラザホテル、豊岡市民プラザ	備える	094
⑨「阪神・淡路大震災からの創造的復興」シンポジウム	R1.11.25(月)	ラッセホール	伝える	096
⑩ 阪神・淡路大震災25年　産学官連携防災啓発プロジェクト	R2.1.11(土)～1.20(月)	ダイエー神戸三宮店、イオンジェームス山店、神戸ハーバーランドumie	備える	098
⑪ 神戸防災のつどい2020	R2.1.17(金)	神戸国際会館	忘れない	099
⑫ 次世代防災ジュニアリーダーによる「震災をつなぐ・伝える」フォーラム	R2.1.18(土)	デュオドーム	活かす	101
⑬ 阪神・淡路大震災25年　防災教育フォーラム	R2.1.21(火)	神戸文化ホール	活かす	103
⑭ 阪神・淡路大震災25年　高校生による絆コンサート　～未来へとつなぐ～	R2.2.1(土)	兵庫県立芸術文化センター	忘れない	105
⑮ ひょうご災害医療フォーラム	R2.2.22(土)	神戸国際会議場	備える	107
⑯ 防災と福祉の連携促進モデル事業	H31.4月～R2.3月	兵庫県内	備える	109
⑰「震災を知る、震災に触れる」体験学習推進事業	R1.5月～R2.2月	人と防災未来センターほか	伝える	111
⑱ 震災・学校支援チーム（EARTH）被災地訓練・研修・報告会	R1.7月～R2.1月	宮城県、熊本県ほか	活かす	113
⑲ 若者たちによる震災を語り継ぐ　動画製作プロジェクト	R1.7月～R2.3月	神戸市内	伝える	115
⑳ 震災25年防災デザイン教育普及事業	R1.12月～R2.3月	神戸市内	活かす	117

3 県・関係機関等が実施した主な事業（32事業）

事業名	実施時期等	実施場所	コンセプト	掲載頁
㉑ 地域コミュニティの防災力の向上シンポジウム	R1.6.3(月)	ホテルモントレ姫路	活かす	118
㉒ 令和元年度(第22回)お弁当・おむすびコンテスト	R1.6.14(金)～R2.2.8(土)	兵庫県内	忘れない	120
㉓ 女性消防団員活性化大会	R1.8.25(日)	ラッセホール	備える	122
㉔ 国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告シンポジウム	R1.8.27(火)	ＪＩＣＡ関西	活かす	124
㉕ 減災復興国際シンポジウム	R1.10.4(金)	国際健康開発センタービル	活かす	126
㉖ 阪神・淡路大震災25年メモリアル特別展示 1995.1.17から25年「振り返る阪神・淡路大震災」	R1.9.20(金)～10.12(土)、R1.10.19(土)～R2.2.15(土)	兵庫県公館	伝える	128
㉗ 天皇陛下御即位記念　阪神・淡路大震災25年特別写真展 皇室と兵庫の25年－ともに歩んだ震災からの創造的復興	R1.10.19(土)～R2.2.15(土)	兵庫県公館	忘れない	129
㉘ 水道災害に備えた実務訓練	R1.10.25(金)、10.29(火)	神戸市教育会館、県営多田浄水場	備える	130
㉙ 阪神・淡路大震災25年　兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念「こころのケア国際シンポジウム」	R1.11.7(木)	神戸ポートピアホテル	活かす	132
㉚ ひょうごため池保全推進フォーラム	R1.11.14(木)	加東市滝野文化会館	備える	134
㉛ 大規模災害を想定した災害救援ボランティア連携訓練	R1.12.4(水)	神戸クリスタルタワー	備える	136
㉜ 神戸ルミナリエ開催事業	R1.12.6(金)～12.15(日)	旧外国人居留地及び東遊園地	忘れない	138
㉝ 兵庫県立大学フォーラム「人を守る減災の科学」	R1.12.12(木)	兵庫県公館	活かす	140
㉞ 人と防災未来センター　震災25年特別展示	R2.1.2(木)～7.12(日)	人と防災未来センター	忘れない	142
㉟ 東日本大震災被災者招へい事業2020	R2.1.16(木)～1.17(金)	阪神・淡路大震災被災地及び神戸市	伝える	144
㊱ 兵庫芸術文化センター管弦楽団第120回定期演奏会	R2.1.17(金)～1.19(日)	兵庫県立芸術文化センター	忘れない	145
㊲ 阪神・淡路大震災25年　「9131　－絵がつなぐあの日とそれから－」	R2.1.17(金)～1.19(日)、1.22(水)～1.31(金)	三宮センター街、兵庫県立美術館	忘れない	147
㊳ 国際防災・人道支援フォーラム2020	R2.1.22(水)	神戸ポートピアホテル	活かす	148
㊴ 2020世界災害語り継ぎフォーラム	R2.1.24(金)～1.26(日)	兵庫県公館ほか	伝える	150
㊵ 国際復興フォーラム2020	R2.1.28(火)	ホテルオークラ神戸	活かす	152
㊶ 令和元年度　防災とボランティアのつどい	R2.2.2(日)	兵庫県公館	伝える	154
㊷ 阪神・淡路大震災を伝える語り部フォーラム2020	R2.2.3(月)	兵庫県公館	伝える	155
㊸ 21世紀文明シンポジウム　「阪神・淡路大震災25年～創造的復興を総括し未来へ提言する」	R2.2.4(火)	神戸新聞松方ホール	活かす	157
㊹ 令和元年度　お米・ごはん推進フォーラム	R2.2.8(土)	兵庫県公館	伝える	159
㊺ マイ避難カードの作成による住民の避難行動の支援 いのちを守る避難行動を考えるシンポジウム	H31.4月～R2.3月（シンポジウム:R2.2.20(木)）	兵庫県内	備える	161
㊻ 自主防災組織体制強化推進事業	H31.4月～R2.3月	兵庫県内	備える	163
㊼ 高齢者・障害者自助力強化推進事業	H31.4月～R2.3月	兵庫県内	備える	164
㊽ 企業ＢＣＰ策定支援事業	R1.6月～R2.3月	兵庫県内	備える	166
㊾ 県民ボランタリー活動実態調査	R1.8月～R2.3月	兵庫県内	活かす	168
㊿「ひょうごBOSAI天然水」の開発	発売：R1.10.29(火)～	神戸市内	備える	170
(51)「ひょうご『学ぼう災』かるた」の作成・配布	R1.11月～R2.3月	阪神地域	活かす	171
(52) 大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト	発災時	－	備える	173

4 その他の記念事業（52事業） [掲載頁：174～180]

1 阪神・淡路大震災25年総合フォーラム

「震災を風化させない－『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」を基本コンセプトとした多彩な記念事業を展開するにあたり、その幕開けとなるメインイベントとして、震災の経験・教訓の継承や更なる活用について考えるフォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和元年６月30日(日)13:30～16:15
兵庫県公館大会議室　(参加者　約300人)

2　プログラム・内容

(1) オープニング演奏(兵庫県警察音楽隊)
【曲　目】オンブラ・マイ・フ(ヘンデル)、陽はまた昇る(フィリップ・スパーク)

(2) 主催者挨拶
井戸敏三　ひょうご安全の日推進県民会議会長(兵庫県知事)

(3) 基調講演「阪神・淡路大震災の経験・教訓の活用の軌跡と課題」
【講　師】河田惠昭　ひょうご安全の日推進県民会議企画委員長
【主な内容】
・阪神・淡路大震災の経験・教訓の活用について概括するとともに、残された課題や今後の防災・減災・縮災のために必要な対策を提言

(4) 合唱「しあわせ運べるように」(神戸市立なぎさ小学校合唱部)
(※歌という手法で震災の経験･教訓を今に伝える事例)

(5) パネルディスカッション「震災を風化させないために
～防災･減災の新たなステージに向けて～」
【ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ】室﨑益輝　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】森本　澪　神戸学院大学現代社会学部社会防災学科3年
(「防災女子」)
相武紗季　女優
中島直實　播磨町石ヶ池自治会自主防災会長
道満雅彦　オリバーソース㈱代表取締役社長
【主な内容】
・震災を経験していない若者や、幼少期の被災経験を胸に全国的に活躍している著名人、震災後に防災対策の充実に取り組んでいる関係者が、震災の経験・教訓を「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」ために必要な方策について議論

阪神・淡路大震災 25 年総合フォーラム　総括メッセージ

24 年前のあの日、未曾有の被害を生じさせ、当時の社会に大きな衝撃を与えた阪神・淡路大震災。あの震災は、我が国の防災・減災対策を根本的に変革させる転換点となりました。

一方で、震災から 25 年を迎えようとする中、激震地・兵庫でも、震災を経験していない世代が社会の中核を担いつつある状況も生じてきています。また、最近の災害において、初動対応の混乱をはじめ、避難所や仮設住宅での生活支援など、阪神・淡路大震災で学んだはずの教訓が十分に活かされていない状況も見受けられます。

このような中、「震災を風化させない－『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」を基本コンセプトとして、本日開催されたこのフォーラムに集った私たちは、震災の経験・教訓の継承と更なる活用の重要性や課題について改めて認識しました。

特に、このフォーラムでは、震災を経験していないにもかかわらず、高い意識をもって小学校への防災出前授業等に積極的に取り組む若者世代の存在に、将来への大きな希望を見いだすことができました。

また、学生・自主防災リーダー・被災企業の経営者の間に新たな連携が生まれるとともに、震災の経験を胸に全国的に活躍している著名人と想いを共有する機会となるなど、世代や分野を超えたつながりに新しい展開が生まれたことは、このフォーラムの大きな成果といえるでしょう。

「震災を風化させない」とは、単に震災の記憶・経験を忘れずに伝えていくことだけではありません。震災で学んだ教訓を活かし、次なる災害に備えられてこそ、その趣旨を全うできるものと考えます。

私たちは、「震災の経験・教訓を忘れずにしっかりと伝え、次なる災害に活かし備える」決意を新たにし、これからも、その実践を通じて、安全安心な社会の実現を目指します。

令和元年６月 30 日
阪神・淡路大震災 25 年総合フォーラム参加者一同

阪神・淡路大震災 25 年スペシャルインタビュー (女優・相武紗季さん)

震災への想いや県民の皆さんへのメッセージについて、「阪神･淡路大震災 25 年総合フォーラム」に出演した兵庫県出身の女優・相武紗季さんにお話を伺い、震災 25 年特設ウェブサイトに掲載した。

【インタビュー概要】
①阪神・淡路大震災　－私と家族－
②いろんな人に守られていた。
③今、私が取り組んでいること
④一児の母となって思うこと
⑤ふるさと・兵庫の皆さんへのメッセージ
－「みんなで備える」－

2 震災25年 新長田にぎわい交流祭

阪神・淡路大震災25年を期に、震災により甚大な被害が生じた新長田のまちを参加者が歩きながら復興までの軌跡を体感するとともに、復興・防災について学習し、意識の高揚を図るイベントを開催した。

また、同日に同地域にて開催されたさまざまなイベントと連携して新長田のにぎわいづくりに貢献した。

1 日時・場所

令和元年９月28日（土）11:00～17:00
新長田駅南地区（鉄人広場、六間道五丁目商店街、新長田合同庁舎　他）
（参加者　約600名）

2 内容

(1) 震災・復興まちかどクイズラリー

阪神・淡路大震災に関連する場所を巡りながら、復興・防災に関するクイズに答え、復興の軌跡や防災に関する知識を参加者に学んでもらうクイズラリーを実施した。

・時　間　11:00～17:00
・場　所　新長田駅南地区一帯
〔ラリーポイント〕鉄人広場（若松公園）、大橋地下道、大正筋商店街、六間道商店街、本町筋商店街、新長田合同庁舎
・参加者　約400名

(2) 復興にぎわいトーク＆ライブ

阪神・淡路大震災経験者や復興支援・防災教育等の活動に取り組むアーティストらによるトーク＆ライブを開催した。

・時　間　14:00～16:15
・場　所　六間道五丁目商店街特設ステージ
・参加者　約200名
・出演者　ウタモモ　歌手
優 利 香　歌手
作　　人　歌手
大鹿達弥　須磨海浜水族園部長
（司会）ケーちゃん　ラジオ関西パーソナリティ

3 阪神・淡路大震災25年 ひょうご防災フェスタ

阪神・淡路大震災から25年を迎えるにあたり、楽しみながら参加できるイベント等を通じて、特に次世代を担う若者や子どもたちの防災・減災への関心や理解を深めるため、下記のとおり「ひょうご防災フェスタ」を開催した。

1 日時・場所

令和元年11月30日（土）10:00～16:15
神戸学院大学ポートアイランド第１キャンパスＢ号館等

2 主催者・参加者数

ひょうご防災フェスタ実行委員会（ひょうご安全の日推進県民会議、神戸学院大学、神戸新聞社）
参加者数　約8,000名

3 主なプログラム・内容

(1) 開会式（10:00～10:30）

① 出 席 者　金澤和夫副知事、佐藤雅美神戸学院大学学長、高梨柳太郎神戸新聞社代表取締役社長
② 内　　容　神戸学院大学吹奏楽部によるオープニング演奏
金澤副知事による主催者代表挨拶等

開会式

(2) 子育て世代向け防災講座（10:30～11:30）

① 講　　師　ミラクルウィッシュ・さんだ女子防災部代表
益田紗希子氏
② 内　　容　乳幼児を抱える保護者向け防災講座

(3) 若手防災職員座談会（11:00～12:00）

① 登 壇 者　神戸市消防局総務課 京谷勇樹氏、兵庫県警察本部警務課警察官採用センター係長 山本和弘氏、陸上自衛隊第三特科隊第４中隊戦砲隊陸曹 稲垣大悟氏、第五管区海上保安本部総務部総務課 庭村翠氏
② 内　　容　幼少期に震災を経験し、その後、防災現場で働かれている若手職員による座談会

(4) 「しあわせ運べるように」音楽祭（11:00～12:00）

① 内　　容　作詞作曲者である臼井真氏（神戸市立高羽小学校主幹教諭）による講演、神戸市立高羽小学校「しあわせを運ぶ合唱団」と参加者全員による合唱

「しあわせ運べるように」音楽祭

(5) 阪神・淡路大震災25年シンポジウム（13:30～15:30）

「防災・減災・復興への取り組みと産学民官の協働～阪神・淡路大震災の経験と教訓をつなぐために～」

① 出 席 者　基調講演：室﨑益輝 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長
(ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ)
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：清原桂子 神戸学院大学教授
パネリスト：泥俊和 ㈱神戸製鋼所環境防災部長、舩木伸江 神戸学院大学准教授、
頼政良太 被災地NGO協働センター代表、早金孝 兵庫県防災監

② 内　　容　(基調講演)被災地の支援体制の構築のための産学官民の連携について提言
(ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ)産学官民の代表者が防災の取組みを紹介し、日頃からの連携を確認

(6) 永島昭浩さん・永島優美さんトークショー「あなたに伝えたい『阪神・淡路大震災』」（15:30～16:15）

① 講　　師　スポーツキャスター・元サッカー日本代表　永島昭浩氏、
フジテレビアナウンサー　永島優美氏

② 内　　容　震災の被災地で暮らした永島さん親子が震災当時の状況やそれぞれの仕事を通じて感じる防災への思いを発信

(7) 学生団体・ＮＰＯ・企業等による体験型イベントやブース出展等（10:00～16:00）

① 内　　容　・ＶＲ防災体験（神戸市・(株)理経共同開発）、神戸学院大学防災女子によるローリングストック料理教室（神戸学院大学）、ひょうご防災新聞教室（神戸新聞社）、家具固定効果体験等の体験イベント
・防災関係機関やＮＰＯ等による活動展示、高校生・大学生による防災教育の実践紹介、東日本大震災・熊本地震の被災地の観光ＰＲ等のブース出展
・神戸市消防局、兵庫県警察本部、陸上自衛隊第３特科隊等の防災車両展示、消防防災ヘリコプター救助デモ

永島昭浩さん・永島優美さんトークショー

屋内ブース

屋外車両展示

消防防災ヘリコプター救助デモ

4 震災25年事業 自主防災組織元気！フォーラム

県民の自主防災に対する意識の醸成を促進するため、「自分たちの命、自分たちのまちは自分たちで守る」という防災の原点に立って、今後の地域防災のあり方を考えるフォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和元年12月７日（土）13:30～16:30
ラッセホール２階「ローズサルーン」（参加者　約200人）

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶
早金　孝　兵庫県防災監

(2) 基調講演「『わがこと意識』で地域防災を考えてもらうために、私たちは何をすべきか」
【講　　師】木村玲欧　兵庫県立大学環境人間学部教授
【主な内容】
・防犯や健康管理と同じように「わがこと意識」を持って災害も危機管理すること
・防災活動は楽しく、継続的に、ステップアップできるように取り組むこと

(3) パネルディスカッション「地域防災、次の課題は何か」
【ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ】木村　玲欧　兵庫県立大学環境人間学部教授
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】川村　喜由　千代が丘防災福祉コミュニティ代表
二階堂悦生　けやき台自主防災会副会長
室﨑　友輔　兵庫県防災士会神戸エリア理事
久保　正彦　前佐用町企画防災課長
山村奈津子　ひょうご震災記念21世紀研究機構研究員
【主な内容】
・子どもが参加できるようにすると親も一緒に呼び込める。みんなで楽しい行事をやりながら地域を愛する気持ち、隣近所の絆を育むことが大事。
・企業の参画や若い世代、今まで地域の中に入ってなかった元気な高齢者を取り込むことも必要ではないか。
・地域の中で頑張っている組織の活動にちょっと「防災」の視点も加えてもらう。まずは地域内で情報の共有を図ることが重要。

5 阪神・淡路大震災25年キャンペーン

1 震災25年若者キャンペーンプロジェクト

阪神・淡路大震災から25年を迎えようとする中、震災の風化が懸念されていることを踏まえ、震災を経験していない若者世代が主体的に取り組む優れた事業を支援した。

(1) 支援内容

・支援金（最大30万円、助成率10/10）の支給
・震災25年ウェブサイト「リメンバー117」でのPR等

(2) 実施グループ

○支援対象事業（10件）

事　業　名	グループ名	内　容
高校生による学科間・産学・高大連携事業～災害食で地域活性化Project～	災害食で地域活性化Project team〔県立松陽高等学校生徒有志のグループ〕	災害食「はりまパン」（パンの缶詰）の製造・普及、ローリングストックの仕組みづくり等
防災を通じた特別支援学校との交流および共同学習	兵庫県立舞子高等学校環境防災科交流・共同学習チーム	特別支援学校の児童・生徒を対象とした劇や講話を通じて、災害に対する備えを共に学び交流
阪神・淡路大震災と丹波市市島町豪雨災害を教訓とした防災教育活動	兵庫県立柏原高等学校インターアクト部〔同校のクラブ活動〕	災害時要援護者（障害者、外国人等）への防災紙芝居による啓発活動、被災地区でのハザードマップ更新支援等
「防災ベンチ」の製作、寄贈、改良、新規開発	飾磨工業高等学校「県下布防」〔同校生徒による課題研究グループ〕	災害時にはコンロとなる「防災ベンチ」の開発・改良、県内学校や被災地への寄贈
災害メモリアルアクションKOBE2020	神戸学院大学社会防災学科安富ゼミ	震災の教訓のインタビュー結果を基に新聞を作成し、同世代と意見交換
ちびっこBOUSAIトライアスロン	Seagull　Rescue〔神戸学院大学防災活動サークル〕	トライアスロン形式で「119番通報」「ジャッキアップ」等を体験できる防災イベントを実施
震災25年「語り継ぐ学校防災」　～その時学校では何が起こっていたのか～	兵庫県立大学　学生　災害復興支援団体LAN（Leaders' Active Network）〔同大学サークル〕	震災を経験した教職員に聞取調査を実施し、教材作成
防災教材アニメーション「あっこちゃんのはさみ」の制作、防災出前授業、教材の普及	神戸学院大学　舩木ゼミ	絵本「あっこちゃんのはさみ」をアニメーション化し、防災教材として発信等
備蓄をもっと身近に！プロジェクト～家庭での食料備蓄に関する教材の開発・普及～	神戸学院大学　防災女子〔同大学サークル〕	家庭における食料備蓄に関する体験型の防災教育教材（カード形式及び視覚教材）の開発・普及
体験型防災イベントブース「KUIS BOSAI国際防災教材研究会」	ＫＵＩＳ　ＢＯＳＡＩ〔関西国際大学防災活動サークル〕	防災啓発ブース出展、応急手当普及講習用の多言語テキスト製作

○奨励事業（7件）

事　業　名	グループ名	内　容
震災(Disaster)・復興(Reconstruction)・減災(Reduction)・レジリエンス(Resilience)の担い手となるためのＤＲ３による研究・交流活動	神戸大学附属中等教育学校ＤＲ３〔同校生徒有志の研究グループ〕	テーマ別研究やテレビ会議等による被災地高校との交流等
高校生による阪神・淡路大震災の教訓の集積と継承	神戸弘陵学園高等学校生徒会地域探検隊	震災時の避難所対応や災害弱者対応等に関する資料・データを集積・分析
ぼうさい委員会 若者普及啓発プロジェクト	117KOBEぼうさいマスター育成会議〔県内17大学の学生で構成[事務局:神戸新聞]〕	ぼうさい・減災クイズや防災グッズの制作体験を組み合わせた県内小中学校での出前授業
Disaster prevention skills up for foreigners living in Japan at Kobe International University	神戸国際大学防災救命クラブ（DPLS）	外国人地域住民とともに、災害に備える技術を学ぶ講演会を開催
やってみよう、避難所運営！！	関西学院大学経済学部栗田ゼミ防災班	避難所運営の実態を学び、体験カードゲームを実施
神戸×大槌の被災地学生による定点観測の展示・交流事業	神戸×大槌定点観測プロジェクト〔神戸大学大学院工学研究科学生有志〕	大槌町定点観測写真展の開催、大槌高校生を神戸に招き活動発表
若者の生き方を語る－阪神・淡路大震災から25年を前に－	CODE未来基金ユースグループ〔同基金により国内外被災地を訪問した若者のグループ〕	海外の被災地を訪ねた若者等を講師とした講演会の開催

2 震災25年若者広報チーム「リメンバー117」

震災の教訓と経験の継承を図るため、阪神・淡路大震災後に生まれた若者世代による震災25年若者広報チーム「リメンバー117」を設置し、震災について学びながら取材した内容等を震災25年特設ウェブサイト上で発信した。

(1) 構成員　防災・減災に関心のある18～25歳の県内の学生　25人
(2) 発信サイト　震災25年特設サイト「リメンバー117」
(3) 活動期間　令和元年８月21日～令和２年３月
(4) 主な発信内容

①防災・減災について
災害と女性、災害とキャッシュレス、災害ボランティアのあり方、家庭防災の進め方、起震車による地震体験、避難所体験　等
②阪神・淡路大震災25年事業について
ひょうご安全の日のつどい、震災25年事業　自主防災組織元気！フォーラム　等

有識者への取材

メンバーによる編集会議

3 阪神・淡路大震災25年ポスター・リーフレット

震災25年の更なる機運醸成を図るため、ポスター及びリーフレットを作成し、公立施設（図書館、美術館、公民館等）や学校、県・市町庁舎、県と包括連携協定を締結している企業（イオン等）等において掲出した。

ポスター

リーフレット表面

6 耐震リフォーム達人フォーラム

耐震改修に携わる建築技術者等を対象とした「耐震リフォーム達人フォーラム」を開催し、耐震改修に携わる者のノウハウ取得と併せ、住宅の耐震補強の必要性を啓発するなど、耐震改修工事の促進のための事業者への支援を行った。

1 シンポジウム・達人塾

(1) 日時等

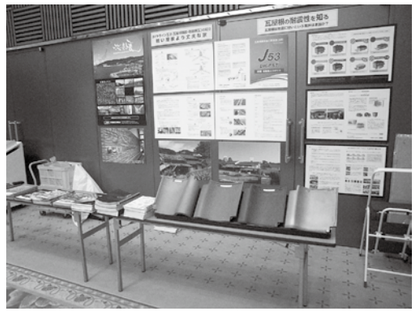
日　時　令和元年10月２日(水)13:30～17:40
場　所　ラッセホール　2階ローズサルーン
参加者　149名

(2) 内　容

① 基調講演　「～阪神・淡路大震災から25年～まち・住まい・安全」
【講　　師】室﨑　益輝　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長
【主な内容】
・大震災の教訓を生かし耐震改修への意識を強く持つことを呼びかけた
・南海トラフ地震等の発生を目前にして、正しく恐れて、技術の変化と災害との関わりを捉えて正しく備えること等を呼びかけた

② 講習会「木造住宅耐震リフォーム達人塾
～ベーシックコース～」
【講　　師】井戸田　秀樹
名古屋工業大学大学院教授　ほか
【主な内容】
・住宅耐震化に向けた建築士・設計士の役割
・ネットワークの重要性と行政の役割
・安価な耐震改修工法の紹介と解説
・耐震改修コストダウンの隠しワザ

③ 展示
【主な内容】
・耐震改修に関する「安全・安心」な資材等を展示した



2 達人塾(豊岡市)

(1) 日時等

日　時　令和元年11月21日(木)13:30～16:30
場　所　豊岡市民会館4階大会議室
参加者　49名

(2) 内　容

講習会「木造住宅耐震リフォーム達人塾～ベーシックコース～」
【主な内容】
・令和元年10月２日に神戸で開催された講習会「木造住宅耐震リフォーム達人塾～ベーシックコース」と同様

3 達人塾(姫路市)

(1) 日時等

日　時　令和元年11月25日(月)10:00～16:55
場　所　姫路労働会館３階多目的ホール
参加者　71名

(2) 内　容

講習会「木造住宅耐震リフォーム達人塾
～アドバンストコース～」
(耐震改修実績がある技術者向けのスキルアップ講習)
【主な内容】
・ベーシックコースの４項目
・耐震診断ソフトの具体的な操作を交えながら、実践的な診断、設計手法の演習

「建築士等の専門家」が住宅の耐震化促進を担っているという目標を共有し、実践を積み重ねる努力が問われていることを改めて確認した。

基調講演を聴いた参加者からは、「耐震改修に携わる者として、いかに被害軽減に役立てるか、そして、積極的に各地域での防災計画推進に関わる必要性を強く考えさせられた」などの声が聞かれた。また、講習会の参加者からは、「耐震診断や補強工事の説明に役立つ」、「新しい技術・知識を学べて耐震化のスピードアップにつなげたい」等々の意見が寄せられた。

7 兵庫県広域防災センター実戦デモ

阪神・淡路大震災から25年の節目を迎えるにあたり、全県広域防災拠点である兵庫県広域防災センターの効率的な活動を促進するとともに、県民の防災意識の向上に資するため、消防、警察、自衛隊などの災害応急活動要員による実戦的なデモンストレーションや、防災体験・防災学習等を実施した。

1 日時・場所

令和元年10月27日(日)10:00～14:00
兵庫県広域防災センター（三木市志染町御坂1-19）

2 主催者・参加者数

兵庫県広域防災センター実戦デモ実行委員会
(兵庫県広域防災センター、(公財)兵庫県園芸・公園協会、兵庫県下消防長会)
参加者数　7,500名

3 プログラム・内容

【北グラウンド】

10:00～10:05　**開会式**
10:05～10:30　兵庫県警察音楽隊によるドリル演奏
10:30～10:45　消防、警察、自衛隊、兵庫県等による**車両実走デモ**(実動部隊で活躍している特殊な車両(16台)の機能や装備内容、災害時の活動内容等を紹介)
10:45～11:15　東播磨・北播磨・淡路地域の各消防本部による**救助訓練**(消防学校訓練施設を使った高所救助訓練)
11:15～11:30　三木市消防本部による**消火救出訓練**
11:30～11:45　三木市消防団による**小型ポンプ操法**
11:45～12:05　兵庫県災害医療センター、明石市消防局、兵庫県消防学校による**消防・医療連携訓練**(狭隘閉鎖空間からの救助救出訓練)
12:00～13:00　陸上自衛隊第３特科隊、ひょうご防災リーダー講座受講者による**炊出訓練**(カレーライス600食)

〈防災体験・防災学習〉

11:15～14:00　**起震車、煙避難体験施設**を使った体験学習
11:45～14:00　**水消火器**を使った消火体験学習
11:45～14:00　三木市消防団が所有する**手引き腕用ポンプ**を使った放水体験(明治32年 美嚢郡志染村消防第５部に配備)

【南グラウンド】

10:50～14:00　消防、警察、自衛隊による災害拠点を模した**宿営訓練、特殊車両の展示**
13:00～13:20　陸上自衛隊による**救助訓練**(瓦礫訓練施設を使った倒壊した建物から負傷者の捜索・救助・搬送訓練)
13:20～13:40　兵庫県警察による**救助訓練**(瓦礫訓練施設を使った氾濫河川の中州からロープによる救助訓練)

【ヘリポート】

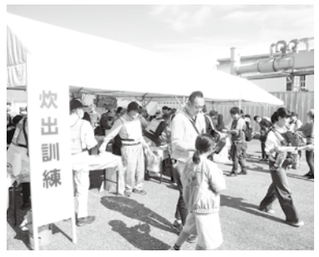
10:00～13:50　陸上自衛隊が所有する**ヘリコプターの展示**
12:10～12:20　陸上自衛隊による**救助訓練**(車両が進入できない被災地を想定した要救助者の救出・搬送訓練)
13:50～14:00　陸上自衛隊が所有するヘリコプターによる**物資搬送訓練**

【陸上競技場等】

10:45～14:00　**スタンプラリー、備蓄倉庫見学**
(関西国際大学の学生がボランティアとして参画)

4 ブース出展団体

江崎グリコ(株)	大阪ガス(株)
神戸学院大学 防災女子	気象庁 神戸地方気象台
生活協同組合コープこうべ	ＮＴＴドコモ
日本赤十字社兵庫県支部	人と防災未来センター
兵庫県	兵庫県栄養士会 JDA-DAT兵庫
兵庫県ＬＰガス協会	兵庫県災害医療センター
フェニックス共済	兵庫県消防協会
兵庫県防災士会	防災科学技術研究所　兵庫耐震工学研究センター
三木市防災コーナー・三木防災リーダーの会	陸上自衛隊



8 地域と未来をつなぐ“ひょうご基幹道路ネットワーク”シンポジウム

基幹道路ネットワークは、災害時の代替路確保や救急医療の速達性強化など「緊急輸送機能の確保」の役割を担う。基幹道路ネットワークによる地域の発展や防災への備えなど幅広く情報発信し、県民一人一人の防災意識を高めるためのシンポジウムを開催した。

1 神戸会場

(1) 日　時：令和元年10月29日（火）14:00～16:15
(2) 会　場：兵庫県公館　大会議室（参加者：300名）
(3) 内　容：
①基調講演
「基幹道路ネットワークによるひょうごの創造と成長」
【講師】小林潔司(京都大学名誉教授)
②特別講演
「阪神・淡路大震災の教訓と高速道路ネットワークの整備」
【講師】今木博久（阪神高速道路㈱執行役員）
③パネルディスカッション
「基幹道路ネットワークによるひょうごの創造と成長」
【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】小林潔司(京都大学名誉教授)
【パネリスト】今木博久（阪神高速道路㈱執行役員）
長尾真(神姫バス㈱代表取締役社長)
中林志郎(兵庫県商工会議所連合会専務理事)
荒木一聡(兵庫県副知事)

2 播磨会場

(1) 日　時：令和元年12月16日（月）14:00～16:00
(2) 会　場：加古川プラザホテル　鹿児の間（参加者：400名）
(3) 内　容：
①基調講演
「ひょうごの歴史　まちづくりとみちづくり」
【講師】小代薫（神戸大学経済経営研究所特命講師）
②話題提供
「はりまのみちづくり」
【説明者】荒木一聡（兵庫県副知事）
③事例報告
「圏央道による企業物流の活性化」
【発表者】大庫隆夫（加古川観光協会会長、加古川商工会議所副会頭）
④意見発表
「わたしたちが考えるはりまのみち」
【発表者】兵庫県立東播工業高等学校　土木科

3 但馬会場

(1) 日　時：令和元年12月18日（水）14:00～16:30
(2) 会　場：豊岡市民プラザ（参加者：300名）
(3) 内　容：
①基調講演
「基幹道路ネットワークの充実が医療現場にもたらす効果について」
【講師】小林誠人(公立豊岡病院但馬救命救急センターセンター長)
②意見発表
「高速道路整備による地域活性化」
【発表者※】兵庫県立豊岡総合高等学校　環境建設工学科
※意見発表に先立ち現場研修を実施
③パネルディスカッション
「基幹道路ネットワークによるひょうごの創造と成長」
【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】八木早希（フリーアナウンサー）
【パネリスト】小林誠人(公立豊岡病院但馬救命救急センターセンター長)
岡本慎二(豊岡商工会議所会頭)
今井ひろこ（コムサポートオフィス代表）
伊藤仁志（兵庫県技監）

4 主な意見

- 基幹道路は、観光、産業だけでなく、日常生活や物流を支え、災害時のリダンダンシーなどにも効果がある。兵庫県の進める「基幹道路八連携軸」が完成すればリダンダンシーも増加し、多様な役割を果たすことになる。
- 新規路線の整備はネットワークのリダンダンシー確保に繋がる。震災後も湾岸線が神戸線の代替機能を果たしていた。大阪湾岸道路西伸部にもリダンダンシーの機能が期待される。
- 播但道や北近畿豊岡自動車道で何かあったときには国道9号などの一般道に交通が集中することがあり、リダンダンシーの観点からも南北軸の強化が必要。全体として「基幹道路八連携軸」を進めることが重要。
- 東日本大震災発災直後には、東北道が利用できなかったため、日本海側から物資を輸送した。リダンダンシーの観点からも山陰側・日本海側を結んでおくことが大事。
- 阪神・淡路大震災から25年という節目を迎え、新しい時代に向け、人口減少、少子高齢化、自然災害への対応、東京一極集中の是正という課題がある。基幹道路ができれば、これらの課題がすべて解決するわけではない。基幹道路を活用して、ひとりひとりがどのような地域の将来像を描くのかが重要である。
- 山陰近畿自動車道は「命の道」である。新温泉町～豊岡病院は、昭和40年代には120分かかっていたものが、山陰近畿自動車道が完成すれば30分まで短縮される。「基幹道路八連携軸」は、地域産業の活性化、交流拡大だけでなく、緊急輸送機能の確保、交通安全の道。基幹道路は、災害時に救助を受けるだけでなく、救助へ向かう時も役立つ。
- 豊岡病院はこの10年間、一度も救急搬送を断っていない。ドクターヘリは全国トップ。50km圏内に15分で行ける。しかし、夜間や悪天候時は飛ぶことができない。24時間出動することのできるドクターカーとセットで命を救う。心臓が止まってから5分で人は死に至る。時間は「命」。ドクターカーやヘリは救急医を現場へデリバリーでき、助けられる確率が高い。道路整備により、30分圏域が広がり、より早く多くの人を助けることができる。
- 道路は「命の道」であることを第一に考えなければならない。その地域しか味わえない物・事があることで、他地域や世界の人達を呼び込むための道になる可能性がある。若い世代も地元の魅力を再確認し、どのように活かすかを自分ごととして考え、そして未来を考える事が大切である。

9 「阪神・淡路大震災からの創造的復興」シンポジウム

南海トラフ地震への備えが喫緊の課題となっている中、「震災の経験・教訓を活かし、防災・減災・強靭化にどのように取り組んでいくか」について考えるシンポジウムを開催した。

1 日時・場所

令和元年11月25日(月)14:00～16:15
ラッセホール　2階　ローズサルーン
(参加者　約320人)

2 プログラム・内容

(1) 主催者あいさつ
荒木　一聡(兵庫県副知事)

(2) 基調講演「阪神・淡路大震災の経験・教訓」
【講　　師】森津　秀夫 氏(流通科学大学　教授)
《「復興10年総括検証・提言報告」において「道路、港湾、鉄道、空港の整備に向けた取り組み」を担当)》

【主な内容】
・復興10年の検証後、交通インフラをつなぐ情報ネットワークが進化し、被災状況が迅速に把握できるようになった。一方、インフラの老朽化や、震災から時間が経過して、危機感が風化してしまうことが新たな問題として顕在化した。
・交通インフラの機能回復が復旧・復興の出発点となる。交通インフラの復旧が遅れれば、地域の競争力をそぐことになる。復旧に優先順位をつけて早期に進められるよう「事前防災計画」の策定が求められる。
・被害を最小化するための防災・減災対策に加え、少子高齢・人口減少社会にあっても、国の経済力を回復することが求められる。インフラ資産の縮小や災害を考慮したコンパクトシティ化も考えざるを得ない。

(3) パネルディスカッション「創造的復興の経験・教訓を活かした南海トラフ巨大地震への備え」
【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】八木　早希 氏(フリーアナウンサー)
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】森津　秀夫 氏(流通科学大学　教授)
阪本　真由美 氏(兵庫県立大学大学院　准教授)
守本　憲弘 氏(南あわじ市長)
荒木　一聡 氏(兵庫県副知事)

【主な内容】

○問題提起
・南海トラフ地震では最大で約30万人の死者が出るといわれているが、その中に自分がいるとは誰も考えていない。次は本当に復旧・復興できるのかと考える人も多い。(森津 氏)
・「阪神・淡路大震災」とは異なり、地震で無事だったとしても、すぐに津波から逃げないといけない。(森津 氏)

○ハード面の備え
・県では、概ね100年に１回発生する津波(レベル１津波)に対して、防潮堤等で津波の越流を防ぐことを目標に堤防や水門等の整備を、発生頻度は極めて低いが発生すれば甚大な被害をもたらす津波(レベル２津波)に対して、浸水被害の軽減を目標に既存防潮堤の補強等を行っている。(荒木氏)
・南あわじ市福良地区では、最大8.1mの津波が来ると想定されており、湾口防波堤を整備している。建設が決まってから、まちを活性化する議論も活発になっている(守本 氏)
・阪神・淡路大震災の教訓から、以降の自然災害からの復旧・復興では、単に元に戻すのではなく、事前防災を考えた対策を進めた。その結果、平成30年7月豪雨では河川水位を下げる等、大きな効果を発揮した。(荒木氏)

○ソフト面の備え
・事前にリスクに対して、関係者で共通認識を持つこと、そのためのコミュニケーションが重要である。伝える側、伝えられる側が相互の意見交換を通して理解を深めるプロセスが欠かせない。(阪本 氏)
・地域で防災計画づくり(地区防災計画制度)に取り組んだ長野県千曲川沿いの長沼地区では、令和元年東日本台風の際、地域の呼びかけで９割の人が避難した。(阪本 氏)
・南あわじ市では、年１回の総合防災訓練に人口の５分の１が参加する。中学生に地域防災の担い手となってもらうような活動も始めている。高齢者も子どもから逃げようと言われれば逃げる。皆で一緒に避難しようという雰囲気をつくろうとしている。(守本氏)

○防災・減災に求められること
・自分に何ができるかという「自助」、行政に何ができるかという「公助」、お互いに助け合う「共助」の３つの取り組みを効率的・効果的に実施することで、防災・減災を進めたい。(荒木 氏)
・災害時になんとしても命を守ることを考え、日頃から想像力を働かせることの大切さを学ぶことができた。(八木 氏)

10 阪神・淡路大震災25年 産学官連携防災啓発プロジェクト

神戸市では、阪神・淡路大震災を経験していない市民が増え続けていく中で、次世代に震災の経験や教訓を伝えていくことが課題になっている。そこで、震災25年の節目に当たる令和２年１月17日の前後の期間に、神戸市と連携協定を締結している企業の協力を得て、若い世代の方々の防災意識の向上を図った。

1　プログラム・内容

(1) 117ＫＯＢＥぼうさい委員会ワークショップ

117ＫＯＢＥぼうさい委員会の大学生メンバーと一緒に、親子で参加できる防災ワークショップを開催。ワークショップに参加した子ども達に“いつでもリュック”をプレゼントした。
また会場付近では“防災関連グッズ”を無料配布した。

(日程)

・１月12日10時から17時頃まで　場所：ダイエー神戸三宮店
・１月18日10時から17時頃まで　場所：イオンジェームス山店
・１月19日10時から17時頃まで　場所：神戸ハーバーランドｕｍｉｅ

(防災関連グッズ協賛企業)

・伊藤ハム株式会社　・江崎グリコ株式会社　・Ｐ＆Ｇジャパン株式会社

(2) パネル展示

「親子で備える防災グッズ紹介パネル」
・１月11日から１月20日　場所：イオンジェームス山店、ダイエー神戸三宮店
・１月14日から１月20日　場所：神戸ハーバーランドｕｍｉｅ
「震災の歩みパネル」
・１月11日から１月20日　場所：ダイエー神戸三宮店

(3) 防災グッズ販売コーナー

１月11日から１月20日の期間中、神戸市内のイオン各店およびダイエー神戸三宮店にて、もしもの時に役立つ防災グッズの販売コーナーを特設した。

11 神戸防災のつどい2020

震災25年の節目に、阪神・淡路大震災の復興過程で学んだ経験や教訓を、最新の知見や情報とともに継承・発信するため、幅広い年齢層が参加し、学びあい、経験する場を創出するため開催した。

1　日時・場所

令和２年１月17日(金)10:00～18:30
神戸国際会館(こくさいホール・セミナーハウス)

2　プログラム・内容

(1) 地域防災シンポジウム

ア．表彰式
・防災功労者表彰
・ともにつくる安全で安心なまちづくり賞表彰
イ．基調講演(河田　惠昭　人と防災未来センター長)
「阪神・淡路大震災の教訓から生まれた国連の持続可能な開発目標(SDGs)」
ウ．防災関係団体シンポジウム・セミナー（参加者　約200人）
(A)「阪神・淡路大震災から25年、次の南海トラフに備える！」
講演・フロアーディスカッション
主催：NPO法人 神戸の絆2005
(B)「安全・安心な社会を目指して-迫る自然災害の危険性とその対策-」
講演・研究紹介
主催：神戸大学都市安全研究センター
(C)「南海トラフ大地震にどこまで備えたらいいのか？」
活動報告・ディスカッション
主催：神戸防災技術者の会(K-TEC)
(D)「突然の大災害に備え、市民・地域コミュニティは何をするのか」
講演・話題提供・パネルディスカッション
主催：公益社団法人日本技術士会近畿支部
(E)「これからの神戸の減災を考える」
講演・ワーキンググループ報告
主催：神戸の減災研究会
(F)「社会科学が防災をどう変えてきたのか」
講演・パネルディスカッション
主催：Joint Seminar減災

(2) 神戸国際防災フェスティバル2020～避難訓練コンサート～

令和２年１月17日(金)13:00～17:30
神戸国際会館こくさいホール(参加者　約1,500人)

ア．避難訓練コンサート[ホール] 15:30～17:30
(A)LINEで情報共有訓練！
(B)花＊花 ミニコンサート
(C)神戸市消防音楽隊 演奏会
(演奏中に災害発生の想定：シェイクアウト訓練・館外へ避難誘導)

イ．防災体験ブース[１F席ロビー]
(A) 土砂災害の恐ろしさをVRで体験しよう！〈神戸市消防局 市民防災総合センター〉
(B) 避難所体験「段ボールベッド」コーナー〈セッツカートン(株)〉
(C) ぼうさいワークショップ〈117KOBEぼうさい委員会〉
(D) 震災写真パネル展示〈神戸新聞社〉
(E) 災害食のレシピ実演・試食〈神戸学院大学 防災女子・コープこうべ第３地区本部〉
(F) 備えあれば憂いなし！オススメ防災グッズ！〈コクヨマーケティング(株)〉
(G) 登山・アウトドアを活かした災害への備え〈(株)好日山荘〉
(H) 子ども用消防服着装体験コーナー

ウ．防災体験ブース[館外特設会場]
(A)「ゆれるん」に乗って、地震の揺れを体験しよう！
〈神戸市消防局 市民防災総合センター〉
(B) 煙体験ハウス
(C) ミニ新聞発行車「神戸新聞 めぐる君」
〈2020年1月17日(金)めぐる君特別号外
神戸新聞社発行〉

12 次世代防災 ジュニアリーダーによる「震災をつなぐ・伝える」フォーラム

震災をつなぎ伝える意識や行動力の向上、さらなる防災・減災意識の向上を図るために、高校生等による被災地支援活動等の内容、成果、今後の課題等について、広く県民に対して発表した。

1　日時・場所

令和２年１月18日(土)　13:00～16:00
デュオドーム　(参加者　約200人)

2　プログラム・内容

(1) 開会式
挨拶　　西上三鶴　兵庫県教育長
稲次一彦　震災25年防災教育事業実行委員会委員長(兵庫県教育委員会事務局教育企画課長)

(2) ポスターセッションタイム(３回に分けて実施)
【発 表 校】防災教育推進校及び被災地『絆』ボランティア活動参加校(27校)
【主な内容】
・自校での防災・減災活動の取組
・被災地でのボランティア活動

(3) 活動報告
【発 表 校】県立舞子高等学校、県立西脇北高等学校、県立佐用高等学校
【主な内容】
・高校生等防災ジュニアリーダーの取組(学習会、東日本大震災被災地支援)
・被災地『絆』ボランティア活動(宮城県)

(4) パネルディスカッション「『ジュニアリーダー防災宣言』に込めた思い」
【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】諏訪清二　防災学習アドバイザー・コラボレーター
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】生徒３名(県立舞子高等学校、県立洲本実業高等学校、県立尼崎西高等学校)
教員２名(県立舞子高等学校、県立西脇北高等学校)
【主な内容】
・被災地でのボランティア活動や防災について取り組もうと考えたきっかけ
・防災宣言に込めた思いや防災に関する活動をする中で成長できたこと
・次の25年にどのように取り組んでいきたいか

(5) 閉会式　　「ジュニアリーダー防災宣言」唱和

『ジュニアリーダー防災宣言』

たくさんの命を奪い、まちをめちゃめちゃにした25年前の震災。その怖さを私たちが実際に体験することはできません。でも私たちはあの震災で救われた祖父母や両親から命を受け継ぎ、復興したまちに暮らしています。私たちが当たり前の日常に慣れ、震災の記憶を風化させてしまえば、過去と現在をつなぐ糸は切れてしまいます。だから私たちは過去を知り、学ぼうとしてきました。

学ぶことによって私たちは「自分は災害が必ず起きる土地に生きている。自分だけは大丈夫だということはあり得ない」ことを胸に刻みました。しかし私たちが受け取ったものは、震災の辛い記憶だけではありません。

一人ひとりの備えと助け合いの大切さ
応援してくれた方々とのつながり
震災の経験を次の被災地支援に活かすこと
そして、今を生きることの幸せ

私たちは、命のバトンをつなぎ体験を伝え続けてくれた人々の思いと、今ここに生きていることへの感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

私たちには、これから取り組んでいきたいことがあります。

震災を体験された方の行動や思いを語り継ぐこと
地域の環境や、そこで暮らす様々な人々の特性について知ること
地域コミュニティの絆をもとに、災害に強いまちを作ること
自分の命と、自分の大切な人の命を守る方法について学ぶこと
震災を体験していないからといってためらわず、伝え続けること

日々の生活の中に防災はあふれています。他人任せにせず、まずは自分のできることから始めます。

自分の夢へ手を伸ばすと同時に、防災を身近なものとして考えます。ひとりひとりが夢と防災をつなげて生きていけば、これからの未来にとって大きな力になります。

私たちは災害に強い未来を築き、次世代へと引き継ぐことを宣言します。

令和２年１月18日

次世代防災ジュニアリーダー

13 阪神・淡路大震災25年 防災教育フォーラム

阪神・淡路大震災から25年という節目の年に、教職員の指導力及び児童生徒の防災・減災に関する実践力の向上を図るため、震災以降、県が推進してきた「兵庫の防災教育」の取組を総括し、新たな防災教育の展開について共通理解を図るフォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和２年１月21日(火)13：00～16：30
神戸文化ホール　大ホール　(参加者　1,056人)

2　プログラム・内容

(1) 開会行事
挨拶　　和泉秀樹　兵庫県教育次長

(2) 記念講演「学校教育が創る災害文化」
【講　　師】河田惠昭(人と防災未来センター長)
【主な内容】
・阪神・淡路大震災の体験・教訓、東日本大震災での確認
・減災社会の実現のための文化の役割
・防災意識を育てる災害文化を創るための防災教育

(3) 高校生による実践発表「防災・減災　高校生にできること　地域コミュニティづくり」
【発 表 者】県立尼崎小田高等学校
網　彩稀・田中涼愛
藤澤奏音・山内桃花
横田二千夏・戸川楓香
【主な内容】
・「災害時要援護者支援対策」への参画
・「防災・絆マップ」を作成
・「あまおだ減災フェスティバル」の開催
・小学校出前授業、市民向けワークショップの実施、地域の防災訓練への参加　　等

■ 県立尼崎小田高等学校の取組

防災・絆マップ

地域の防災訓練への参加

(4) パネルディスカッション「児童生徒の命を守る学校防災体制の構築」

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】前林清和（神戸学院大学教授）

【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】髙津智子（岡山県倉敷市立藤小学校長）
石濱晃生（芦屋市都市建設部防災安全課長）
浅井裕治（南あわじ市立福良小学校主幹教諭）
谷　哲一（佐用町立三日月中学校教諭）
堀　芳美（県立こやの里特別支援学校教諭）

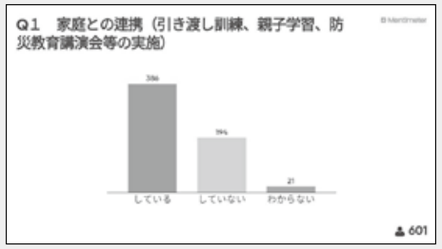
【主な内容】

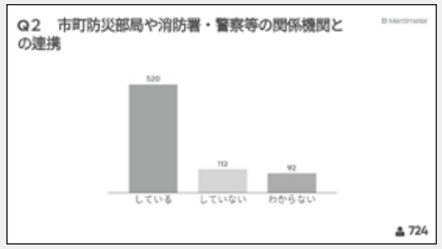
・災害発生時に機能する災害対応マニュアルにしていくためには
・地域との連携を図る上で大切なポイント（参加者アンケート結果を受けて）

(5) 閉会行事

挨拶　　稲次一彦　震災25年防災教育事業実行委員会委員長（兵庫県教育委員会事務局教育企画課長）

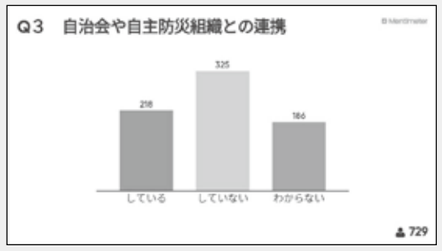
パネルディスカッションで実施した参加者対象アンケート結果





※参加者がスマートフォンを用いて回答し、
回答結果をスクリーンに表示

兵庫県マスコットはばタン



14 阪神・淡路大震災25年 高校生による絆コンサート ～未来へとつなぐ～

震災を語り継ぎ共生の心を育むとともに、防災・減災意識の向上を図るため、震災をテーマとした高校生による演奏や、兵庫ゆかりの著名人を交えたトークライブ等を行った。

1　日時・場所

令和２年２月１日（土）12:30～15:30
兵庫県立芸術文化センター　阪急中ホール
（参加者　574人）

2　プログラム・内容

(1) ステージ発表

○第１部『語り継ぐ』

プロローグ

＜兵庫の成り立ち＞

和太鼓　　神戸市立須磨翔風高等学校　和太鼓部
「蒼天」（作曲：岡田吉弘）
「剣豪」

群　読　　県立宝塚北高等学校　演劇科

＜阪神・淡路大震災を生きた人々＞

朗　読　　塚本麻里衣（ＡＢＣテレビアナウンサー）
県立宝塚北高等学校　演劇科

「震災を生きて」（編集：兵庫県教育委員会）

演　奏　　神戸山手女子高等学校　音楽科
「パリは燃えているか」（作曲：モーリス・ジャール）
「ヴォカリーズ」（作曲：ラフマニノフ）
「故郷」（文部省唱歌）
「ひまわり」（作曲：福山雅治）

トークライブ

＜あの時失ったもの　あの時はじまったこと＞

塚本麻里衣（ＡＢＣテレビアナウンサー）
金居光由（神戸新聞社阪神総局長）　　豊田智香子（高校生保護者）
松本　亨（宝塚市立小浜小学校学校参事）
立野貴大（県立舞子高等学校３年）　　青田愛花（県立尼崎小田高等学校３年）
小原徳武（県立西脇北高等学校３年）

【主な内容】

・被災体験
・共生の心の芽生え
・高校生、小中学生に伝えたいこと

＜あの時の兵庫を忘れない＞
朗　読　　塚本麻里衣（ＡＢＣテレビアナウンサー）
「明日に生きる」（編集：兵庫県教育委員会）
管弦楽・合唱　　県立西宮高等学校　音楽科
「マニフィカート」より「エスリエンテス」
（作曲：ラター）
「アヴェ・マリア」（作曲：カッチーニ）
「歩こうよ」（作詞：松田歩　作曲：加納久仁子）

○第２部『未来へ備える』
パネルディスカッション
＜未来に向かう私たち＞
塚本麻里衣（ＡＢＣテレビアナウンサー）
谷川彰一（学校法人大原学園顧問）　金居光由（神戸新聞社阪神総局長）
門脇創一（県立西脇北高等学校教諭）
先間直樹（県立舞子高等学校３年）　青田愛花（県立尼崎小田高等学校３年）
堀北志歩（県立西脇北高等学校２年）
【主な内容】
・高校生が取り組んでいる防災活動
・震災・学校支援チーム（ＥＡＲＴＨ）の活動
・兵庫県の取組・活動についての感想・評価
・今後予想される災害について
・未来の防災への視点

＜未来兵庫へ＞
合　唱　　県立長田高等学校　音楽部
「前へ」（作詞・作曲：佐藤賢太郎）
「僕らのふるさと」（作詞：橘駿人　作曲：山本翔太）
全体合唱
「しあわせ運べるように」（作詞・作曲：臼井真）

(2) ホワイエ展示
県立舞子高等学校
県立尼崎小田高等学校
県立西脇北高等学校

(3) アナウンス
県立尼崎稲園高等学校　放送部

15 ひょうご災害医療フォーラム

「災害列島に暮らす私たちへのメッセージ」をテーマに、各界からパネリストを招き、阪神・淡路大震災での経験を披露し、未来の災害への備えについて発信するフォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和２年２月22日（土）13:20～15:30
神戸国際会議場１Ｆメインホール　（参加者　約310人）
３Ｆ国際会議室301（サテライト会場）

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶
中山　伸一　兵庫県災害医療センター長

(2) 基調講演１「阪神・淡路大震災からの25年を振り返って」
【講　　師】室﨑益輝 兵庫県立大学減災復興政策研究科長
【主な内容】
・人間が生きていくためには生命だけではなく尊厳も守られる必要があり、生活・生業・生態を確保しなければならない。
・生命を守るには緊急段階だけでなく応急段階から復旧復興、予防の段階も大切。耐震補強と救助救急・災害医療・災害看護は車の両輪であり、横断的なネットワークの構築が必要。

(2) 基調講演２「いのちの砦：あの震災から進んだこと、変わらないこと・・・」
【講　　師】中山伸一 兵庫県災害医療センター長
【主な内容】
・阪神・淡路大震災では情報の共有ができず、どこで何が起こっているかわからなかった。
・災害時は医療機関・医療従事者も被災するが医療機関の仕事は増える。被災時にいかに業務拡大をするかが課題。
・震災の教訓から、災害拠点病院、災害派遣医療チーム（DMAT）、広域災害救急医療情報システム（EMIS）の整備など災害医療体制は一定の進歩を遂げているが、医療機関の脆弱性は現存しており、ハード・ソフト面とも様々な角度から強靭化に取り組む必要がある。
・医療人以外も「いのちの砦」となるべき医療機関の限界を理解し、災害発生時に自助・共助・公助全てが相補うことの重要性を認識してほしい。

(3) パネルディスカッション
【司　　会】大牟田智佐子　毎日放送報道局クロスメディア部次長
中山伸一　兵庫県災害医療センター長
【パネリスト】鍵本敦　神戸市消防局警防部長
植田信策　石巻赤十字病院副院長
村井雅清　被災地NGO協働センター顧問
福本正幸　神戸製鋼ラグビー部チームディレクター
臼井真　神戸市立高羽小学校音楽専科主幹教諭

【主な内容】

鍵本氏

・震災時は長田消防署で当直司令をしていたが、初動時に市内全体の被害状況が把握できなかった。また、自治体消防による広域応援の具体的計画も無かったため非常に混乱した。

・現在は情報システム（映像通報システム『Live119』やSNS、AIを利用した消防団スマート情報システムなど）の整備や緊急消防援助隊制度の創設が行われている。

植田氏

・東日本大震災時は、避難所を回りエコノミークラス症候群等の二次健康被害防止のため検診を行ったほか、雑魚寝を避けるために段ボールベッドの設置や運動指導も行った。

・現在は避難所の環境改善のため『TKB活動』（トイレ・キッチン・ベッド）を推進している。こういった活動を実際に運用できるシステムづくりが課題。

村井氏

・阪神・淡路大震災では保育園を拠点にボランティア活動を行い、配食、救援物資の配布、保育サポートなど暮らしの支援を行った。被災者を孤立させないことが大事だと学んだ。

・近年、災害時のボランティアが激減しているが、自治体等が制限している場合やメディアが流す情報（装備や服装についての注意等）がハードルを上げているのかもしれない。

大牟田氏

・阪神・淡路大震災の半年前に地震記者になるよう指示を受けて取材をしていたが、実際に起きた震災は想像していたものとあまりに違うことに衝撃を受けた。

・当時は起きたことを追いかけて報道しており、もう少し先に起こるであろう問題を先回りして掘り起こし、未然に防ぐということができなかった。

・現代ではSNSが台頭し、デマ・フェイクニュースが問題となっている。それらを打ち消せるだけの信頼できるソースになるため、正確な取材をもとに正しい情報を伝え続けることが必要。震災後に神戸から様々な動きが生まれていることも世界へ発信しないといけない。

福本氏

・ラグビー日本選手権で優勝し帰神した翌朝に被災した。近隣の人命救助や支援物資の搬送を行ったが、救えなかった命が目の前にあり辛かった。スポーツで神戸の皆さんを勇気づけようと頑張った。

・被災後、自分たちは『生かされている』ということを思い知らされた。だからこそ地域や社会に役立つ存在でありたいと考えるようになり、社会貢献活動を行っている。

臼井氏

・『しあわせ運べるように』という歌は、故郷神戸への思いを子ども達の清らかな声に託したもの。震災から25年が経ち当時の思いが風化していく中、阪神・淡路大震災を忘れないというシンボルとして残っていってほしい。

(4) 合唱（神戸市立高羽小学校「しあわせ運ぶ合唱団」）

小学校5、6年生27名が『笑顔の向こうに』と『しあわせ運べるように』の2曲を合唱

16 防災と福祉の連携促進モデル事業

阪神・淡路大震災から25年が経過した今なお、大規模災害の度に多くの高齢者・障害者が犠牲になっている。県では「ひょうご防災減災推進条例」等に基づき、地域における避難のための個別支援計画（以下「計画」という。）の作成を促してきたが、福祉的な配慮を要する認知症高齢者や重度障害者等の計画作成については、その心身状況や生活環境等を熟知した福祉専門職（ケアマネジャー、相談支援専門員等）による協力が欠かせない。

そのため、福祉専門職が自主防災組織や社協、地域包括支援センター等と連携し、計画作成を行うモデル事業に県内36市町で取り組んだ（平成30年度には丹波篠山市と播磨町で先行実施）。

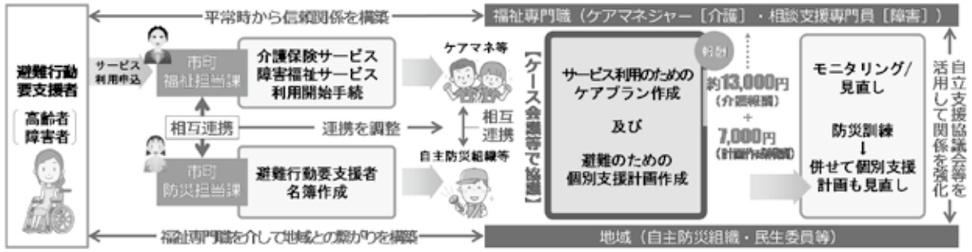
1 事業内容

(1) 福祉専門職（ケアマネジャー、相談支援専門員）が、平常時のケアプランやサービス等利用計画の作成に合わせて計画を作成することで、平常時・災害時の支援の一体化を推進

(2) 福祉専門職が所属する事業所には計画作成に係る報酬として、7,000円/計画１件を支給

(3) 県・人と防災未来センター・県社会福祉士会で実行委員会を構成し、事業を実施

■ 事業実施イメージ



■ 計画作成の流れ

実施過程	内容	時期
Ⅰ 事前準備	■ 市町職員対象実務研修 ■ 福祉専門職対象防災対応力向上研修（県内10箇所） ■ 自主防災組織対象福祉理解研修（各市町）	４月 ５～12月 ６～12月
Ⅱ アセスメント	■ 市町職員中間進捗状況確認会議 ■ 当事者力アセスメント（各市町） ■ 地域力アセスメント（各市町）	９月 10～12月 10～12月
Ⅲ 計画作成	■ ケース（調整）会議を通じた個別支援計画の作成（各市町） ■ 避難訓練を通じた個別支援計画の検証（各市町） ■ モデル事業総括シンポジウム ■ 県・市町意見交換会	10～12月 １～３月 ３月※ ３月※

※シンポジウム及び意見交換会は新型コロナウイルスの影響により開催延期（時期未定）

2　取組例

(1)　福祉専門職対象防災対応力向上研修

講義・演習により、災害リスクや災害法制のほか、計画作成に必要な当事者力アセスメントやケース（調整）会議の実施に必要なスキルを習得（受講者には県防災監名による修了証を発行）

(2)　自主防災組織対象福祉理解研修

モデル事業の実施に先立ち、対象地区の地域住民に対し、アイマスクや耳栓を活用した障害体験等を通じて認知症高齢者や障害者への配慮について学ぶ機会を提供

(3)　ケース（調整）会議

福祉専門職、自主防災組織、本人・家族、地域住民、社協等関係者が集まり、当事者力・地域力アセスメントの結果を踏まえ、エコマップの作成を通じて計画を作成

(4)　避難訓練

ケース（調整）会議で作成した計画の検証を行うため、要支援者本人の参加による避難訓練を実施し、必要に応じて修正を行い、計画を完成

ケース（調整）会議

要支援者の避難訓練

3　その他

(1)　モデル事業に対する関係者の評価（主なもの）

	モデル事業に対する評価	主な取組・今後の方針
国	● 個別支援計画の法定化を含め、兵庫県の意見を参考にしたい。［内閣府］ ● 福祉専門職の協力がないと計画作成が困難であることは理解できる。［厚生労働省］	● 内閣府・厚労省の課室長級のワーキング会議で兵庫県の取組を議論 ● 中央防災会議に新たな部会を設置し、兵庫県の取組を参考に避難支援体制について検討
県内市町	● 計画作成の過程で地域の結束が高まり、平常時の見守り強化にも繋げることができた。 ● 高齢者・障害者自身の防災意識の向上（自助の強化）に繋がった。	● 来年度以降も事業継続を希望 ● 保健師や看護師とのネットワークを広げての勉強会を実施予定
自主防災組織	● 実効性のある計画を作成でき、避難訓練を通じて自分たちにも支援が可能であることを実感できた。	● 対象者を広げて取組を継続することを希望（同一地区内での横展開等）
福祉専門職	● 地域住民と留意事項を共有し、災害時の支援体制を構築できた。	● 一定の職務経験がある専門職であれば、研修の受講により十分対応可能

(2) 今後の方針

①モデル事業の成果を生かし、来年度以降は県・市町の一般施策として全市町で取組を展開

②全国的な制度化に向け、介護保険・障害福祉サービス等により計画作成の対応を行うことを目指して国への働き掛けを強化

17　「震災を知る、震災に触れる」体験学習推進事業

震災を知らない子ども達が震災を知り触れることで、阪神・淡路大震災を語り継ぐため、震災関連施設における県内の公立小中学生の震災に関する体験学習を支援した。

1　対象事業

次の全ての条件を満たす校外学習

(1) 県内公立小中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校（小中学部）が実施する校外学習であること

(2) 人と防災未来センター、北淡震災記念公園、三木総合防災公園のいずれかを訪問する校外学習であること

2　支援内容

校外学習において利用するバス借り上げに係る経費を補助する。

(1) １台あたり25,000円

(2) １校あたり75,000円（３台分）を上限として補助

3　支援実績

校種	実施校数（校）				訪問者数（人）			補助台数（台）
	人と防災未来センター	北淡震災記念公園	三木総合防災公園		児童生徒	引率教員等		
小学校	44	3	0	47	3,272	221	3,493	86
中学校	33	3	0	36	3,906	292	4,198	85
合計	77	6	0	83	7,178	513	7,691	171

人と防災未来センター

事業実施校の報告より

- 1.17シアターで阪神・淡路大震災の地震破壊のすさまじさを体感し、泣き出す児童もいた。しかし、その後、復興に至るまでのまちや人々の様子を学習し、多くの児童が「人の力はすごい。」「みんなで助け合って、復興していった。」という感想を持った。また、「減災」という言葉を初めて知った児童も多く、昨今の自然災害に対する備えについての学習にも結びつけることができた。
- 人と防災未来センター内の見学及び講座を通して、阪神・淡路大震災や防災・減災について学習した。帰校後も、社会「くらしを守る」の学習と関連付けて、震災を知るだけでなく災害から身を守ることについて学びを深めた。見学及び講座を経験したことで、児童の関心・意欲も高く学習に臨めた。
- 震災直後の救助活動では、地域のつながりが強い北淡地区では行方不明者がゼロだったことを知り、防災には地域とのつながりが不可欠であることに気づくことができた。過去に起こった災害が、自分たちにも起こるかもしれないという危機感を感じられるようになった。「安心・安全・愛情あふれる淡路島へ」をメインテーマに地域防災について考える総合的な学習の時間への第一歩を踏み出すことができた。
- 震災を体験していない生徒たちが、震災を体験された語り部の方の体験談を直接聞けたことで、自然災害の恐ろしさや自助、共助の大切さに気づくことができた。また、当時の避難所生活を余儀なくされた中学生の様子を知り、何不自由なく日常生活を送れるありがたさにも気づくことができた。
- 阪神・淡路大震災の様子を模擬体験することで、震災のすさまじさや怖さを知ると共に、命の大切さや共に助け合うことの大切さを感じることができた。震災の記憶を風化させず、伝えていく必要があることを実感させることができた。
- 事前に阪神・淡路大震災のビデオを見せ、訪問に臨んだ。人と防災未来センターで学んだこと、インターネットで調べたことを中心に、学習したことを新聞にまとめることで、さらに防災への意識が高まった。10日後に学校で避難訓練を実施したが、生徒はいつにもまして真剣な態度で臨めていた。
- １月を通して「防災学習」として震災を知らない生徒に当時の様子を伝え、そしてこれからの社会の担い手としての意識を養ってきた。また、理科の授業を通して地震のメカニズムを学習した上で、野島断層の見学に臨んだ。自然の力の偉大さ、恐ろしさを体感し、今後来るであろう自然災害に対しての防災の意識が高まった。

北淡震災記念公園

18 震災・学校支援チーム（EARTH）被災地訓練・研修・報告会

震災・学校支援チーム（EARTH）が、これまで支援を行ってきた宮城県・熊本県を訪問するとともに、現地での合同研修を実施し、これまでの支援活動の成果及び課題を共有した。また、現地研修後には、今後の被災地支援に活かすとともに、兵庫の防災教育の一助とするため、地区別に報告会を実施した。

1　日時・場所

【現地研修】　参加者　各20人

○宮城県

令和元年７月31日（水）～８月３日（土）

気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市

仙台市

○熊本県

令和元年８月22日（木）～８月24日（土）

南阿蘇村、益城町、熊本市

【報 告 会】

令和元年９月～令和２年１月

各地区で実施される地区別EARTH訓練・研修会

2　プログラム・内容

(1) 震災関連施設訪問

【宮 城 県】

気仙沼市：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
　　現地ガイドによる市内案内

南三陸町：南三陸町役場震災庁舎

石 巻 市：大川小学校跡地、現地ガイドによる講話

東松島市：東松島市震災復興伝承館

仙 台 市：震災遺構　仙台市立荒浜小学校

【熊 本 県】

南阿蘇村：阿蘇大橋工事現場視察
　　地獄温泉「青風荘」での講話
　　南阿蘇西小学校　元校長による講話

益 城 町：東無田地区の現地ガイドによる町内案内
　　及び講話

熊 本 市：現地ガイドによる熊本市内案内
　　熊本城

(2) 現地教職員との合同研修

【宮 城 県】　令和元年度 災害時学校支援チームみやぎ【養成研修Ⅰ】

・講話「先進チームに学ぶ　～兵庫EARTHの取組から～　」

・EARTH員と災害時学校支援チーム候補者との協議・意見交換

派遣経験者から実際の被災地派遣における様子の紹介

派遣に向けた協議・意見交換

【熊 本 県】　平成31年度（2019年度）熊本県学校支援チーム隊員の更新研修

・熊本県内防災教育実践校による実践発表

・平時の防災教育・防災活動に関する意見交換

・EARTH員と熊本県学校支援チーム隊員との協議

実際の被災地派遣に向けた準備や現地での対応について

(3) 報告会　（参加者　178人）

・地区別EARTH訓練・研修会において、本研修の内容及び成果の報告と全EARTH員での共有

3　受講者の感想等

1　この研修を通して気づいたことや考えたこと

・当時の日常の様子を置き去りにして結果だけで考えてはいけないと思った。震災時、当事者が見ていたものや考えていたこと、そして、できたことやできなかったことを深く検証していくことが大切だということを感じた。

・様々な人がいろいろな角度から震災に向き合い、努力している。それに触れられたことに研修の意義を感じた。そうした人たちの気持ちの上に立って活動していくのが、自分たちEARTH員だと思う。

2　今後、児童生徒に伝えたいこと

・自分の命を守ることの大切さについて伝え続けていきたい。そのために命を守れる知識を身につけさせるとともに、それを行動に移せる判断力・実践力も身につけさせたい。

・自分たちの現在住んでいる地域でのコミュニティ作りを学ばせたい。地域における自分たちの役割の自覚や、災害を語り継いでいくことの大切さについて伝えたい。

3　今後、所属校の教職員に伝えたいこと

・今、目の前にある環境だけで防災教育を考えると不十分である。幅広い視点から防災教育について考えていく必要がある。

・兵庫県に勤める私たちだからこそ、さらに防災教育を頑張る必要があるということを伝えたい。兵庫県では震災から25年を迎え、防災に対する意識の変化も見られる。熊本の姿を伝え、そこから感じた自分の思いを伝えることで、兵庫や神戸を次のステップへと向かわせていきたい。

4　今後、EARTH員として取り組んでいきたいこと

・あらゆる教育活動全体を通して、防災教育の目的である「災害から生き抜く力」を育む視点を持った授業や活動ができないか提案していきたい。

・学んだことや苦しみながらそれでも頑張っている人の存在を、広く伝えていきたい。学校と市で防災に向けて、公助・共助で取り組める体制を作れるように発信していく。

19　若者たちによる震災を語り継ぐ動画製作プロジェクト

阪神・淡路大震災から25年目を迎える令和2年１月17日に向け、大震災の記憶と教訓から何を学び、何を伝えるべきかを震災のあとに生まれた25歳以下の若者たちが自ら行動し、考え、発信していく過程を映像作品として制作。同世代と次なる世代に発信していくことで、若者たちによる震災の新たな語り継ぎを育成、世代への震災の記憶の継承に繋がるプログラムの構築を目指した。

■ 動画製作にかかる学生たちの活動内容

(1) “人”チーム（「コネクション(Connection) 語る つなぐ 届ける」冊子の制作・配布）

日　時：令和元年12月15日　場所：神戸ルミナリエ2019会場“慰霊と復興のモニュメント”

概　要：幼い息子を亡くした母親、救えない命に直面した消防士など学生たちが出会った体験者の話から心に残った言葉をまとめた「Connection」と題した冊子を制作。約100部を会場に訪れた人に配布した。

(2) “地域”チーム（「TALK ABOUT- 」イベント）

日　時：令和2年1月11日、12日、17日　場所：新長田・大正筋商店街特設ブース

概　要：震災で大きな被害を受けた大正筋商店街にハーブティーのカフェをオープン。ハーブは商店街の方々が種を撒き、みんなで育てたハーブティーを飲みながら“世代を超えた語り合いの場”を作り出した。

(3) “行政”チーム（市長へのプレゼンテーション　僕たちが考える防災）

日　時：令和元年12月27日　場所：神戸市役所　市長室

概　要：震災を体験した市職員や被災された方への取材を踏まえ、防災・減災を広めてゆくには何が必要か、若い世代の役割は何かについて久元神戸市長に提案した。

■ 成果発表イベント

1　日時・場所

日　時：令和2年2月2日（日）13：30～18：00

場　所：ふたば学舎　講堂

参加者：約300人

2　プログラム・内容

(1) 第一部（ブース展示イベント）

① MUSIC／音楽（COMING KOBE）

“神戸からの恩返し”を合言葉に日本最大級のチャリティロックフェスを生んだ伝説の男、松原裕さんのドキュメンタリー映像作品の一部を先行公開。震災を伝え、被災地を勇気づける音楽の力を伝えた。

② ART／アート（命の一本桜 アトリエ太陽の子）

巨大な模造紙に描かれた一本の桜の木、ピンク色の絵具の手形で表現する花の部分は来場者の皆さんに押し当ててもらい、全国各地の被災地の復興への祈りと未来への希望を込めた“命の一本桜”を完成させた。

③ DESIGN／デザイン（シンサイミライノハナ Co.to.hana）
　黄色の花びらに記された一人一人の震災への思い、それを組み合わせて花のオブジェを作り、街に飾り、震災について考えてもらうプロジェクト。来場者の皆さんと一緒に会場を黄色い花でいっぱいにした。
④ BOSAI／防災（体感して学ぼう！～大切な人のために今あなたができること～ JA共済）
　VRを生かした新しい地震体験装置として注目を集める“地震ザブトン”。観測データや将来の南海トラフ巨大地震の予測データを生かしたリアルな揺れを体験してもらった。
（コンテンツ協力：NPO法人プラス・アーツ）
⑤ VIDEO／映像「若者はいかにして防災の道を歩むのか」神戸学院大学学生放送局
　U25プロジェクトのリーダーを務める同じ大学に通う防災を学ぶ学生を追った映像作品。学生生活などを交えて同世代の視点でU25プロジェクトを紹介した。

(2) 第二部（ステージイベント／制作動画の上映会）

① DOCUMENTARY ドキュメンタリー 映画「TALK ABOUT-」（90分）

　遺族をはじめ震災の体験者に向き合った“人”チーム、新長田の商店街の人たちと復興について考えた“地域”チーム、これからの防災・減災のあり方を提案にまとめた“行政”チーム。若者たちは次の25年へと繋ぐため、「経験者」に向き合い、自分たちが今、出来ることを考え、行動した。“人”“地域”“行政”をテーマに格闘を続けた彼らの半年に密着した、新たな「経験者」として立ち上がろうとする若者たちのドキュメンタリー映像を上映した。

② DANCE ダンス 神戸野田高校ダンス部「繋ぐ ～明日へと語り継ぐ～」
　全国大会優勝3度を誇る神戸野田高校ダンス部、U25プロジェクトにも3人の部員が参加。25年前、震災をテーマに創作した「1/17あの日から・・・」と合わせて、震災25年の新しい作品を作り上げ、初公開した。

③ パネルディスカッション「TALK ABOUT-」
　U25プロジェクトに参加した“人”チーム、“地域”チーム、“行政”チームの学生たちがプロジェクトの成果とこれから自分たちに何が出来るのか、本プロジェクトを通してお世話になった方々や、会場に集まった若者たちと一緒に未来を語った。
（ファシリテータ：
元NHKアナウンサー住田功一氏）

20 震災25年 防災デザイン教育普及事業

　幼稚園や保育所等の子ども達が災害時に自らの生命を守るための防災教育を推進していくために、「震災25年防災デザイン教育普及実行委員会」を設置し、未就学児及びその子育て世帯がより高い防災意識を持つことができるよう検討を重ね、防災教材の制作を行った。

1　事業概要

　幼稚園・保育所に通う子どもたちに対して、災害時に発生する様々な危険と正しい行動について考えてもらうことを狙いとした防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」をさらに活用する方法を検討するため、神戸市内の幼稚園、保育所等でワークショップを令和元年12月から令和２年1月にかけて実施した。その際に洗い出された課題や改善点等を反映させながら、より手軽で繰り返し使用できるよう絵本およびデジタル化した教材の制作・配布等を行った。

実施主体
主　催：震災25年防災デザイン教育普及実行委員会
　　（NPO法人プラス・アーツ、日本赤十字社、神戸市、神戸市教育委員会）
協　力：神戸市私立幼稚園連盟、神戸市私立保育園連盟

2　制作した教材

(1) 絵本版「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」の制作・配布・ウェブ公開
・避難訓練前後にクラスで活用する
・絵本棚に置いておき園児たちが自由に読むことができる
・貸出絵本として家に持ち帰り保護者と一緒に読むことができる

(2) 家庭で使えるクイズ版「ぼうさいまちがいさがし」の制作・ウェブ公開
・家庭でもう一度やってみるきっかけにする
・家庭でも実施することで家での危険を探すきっかけにする

(3) 今回の取り組み（(1)(2)）を紹介するチラシの制作
・防災意識を高める今回の取り組みに共感し、実施する幼稚園・保育所を増やすためのチラシを制作

21 地域コミュニティの防災力の向上シンポジウム

人口減少、超高齢化による担い手の不足や、コミュニティの希薄化が進むなか、どのようにして地域コミュニティの防災力を向上させるかは喫緊の課題である。ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センターでは、平成29年度から30年度にかけて実施した「地域コミュニティの防災力向上に関する研究～インクルーシブな地域防災へ～」の研究成果報告会を姫路市内で開催した。

1　日時・場所

令和元年６月３日(月)13:30～16:30
ホテルモントレ姫路　３階ラフェスタ(参加者　197人)

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶
五百旗頭　真
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

(2) 基調講演「地域コミュニティの防災力の向上－みんなが〈助かる社会〉の構築をめざして」
【講　　師】渥美公秀　大阪大学大学院人間科学研究科教授
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター　政策コーディネーター
【主な内容】
・研究会の背景として、阪神・淡路大震災から25年を迎えようとする今、防災の取り組みはかなり進んできてはいるものの、超高齢社会、人間関係の希薄化等でコミュニティの力が低下してきている。
・研究会ではこうした背景を踏まえ、多様な人々ひとりひとりに配慮したインクルーシブな地域防災のあり方について、高齢化の進む兵庫県上郡町赤松地区をモデル地区として検討を重ねてきた。
・地域防災力を向上させるためには、防災に特化せず、地域おこしや福祉等の取り組みと連動させていくことが重要であり、当事者である地域住民はもとより、行政や専門家等のアドバイザリーチームを交えて地域コミュニティの魅力と課題について対話を重ね、取り組みを進めていくことが必要である。

(3) 基調報告「赤松地区連合自主防災組織の取り組み」
【報 告 者】古正好晴　兵庫県上郡町赤松地区連合自治会長
・兵庫県上郡町赤松地区での自主防災の取り組みについて、古正好晴　赤松地区連合自治会長から報告。播磨国守護の赤松円心、また明治政府の礎を築いたとされる大鳥圭介男爵の縁の地である上郡町赤松地区では、豊富な歴史資産を活用したイベントの開催に熱心に取り組むとともに、地域の自主防災についても活性化を図ってきた。
・「地域コミュニティの防災力向上」研究会からの提案を受け、超高齢化社会における自主防災のモデルとして、地域活動の機会を活用した地域外との連携強化や防災意識の向上に取り組むこととなった。
・具体的には、毎年11月に開催される「白旗城まつり」を防災と絡めた実践的な活動の場とすることを目指して、集落調査や村づくり会議を実施し、交通弱者でもある高齢者や障がい者の参加方法(＝避難方法)をはじめ、参加者への昼食の提供(＝炊き出し訓練)、仮設トイレの設置等について、ひとつひとつ検討を重ねていった。
・こうしたむらづくりに防災の意識を取り入れて地域の防災計画を考える取り組みを経て、「赤松地区防災計画」が策定された。
・この防災計画については、今後２年ごとに見直していき、その都度見えてくる課題と向き合いながら常に進化形でいくという姿勢で取り組んでいく。

(3) パネルディスカッション「まちづくりに包含される＜助かる社会＞とは」
【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】矢守克也　京都大学防災研究所教授・人と防災未来センター上級研究員
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】宮本　匠　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科講師
小林郁雄　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授
人と防災未来センター上級研究員
村井雅清　被災地ＮＧＯ協働センター顧問
山田壽範　兵庫県上郡町役場住民課副課長
【ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ】室﨑益輝　兵庫県立大学大学院減災復興政策科長・教授
【主な内容】
・「助かる」「インクルーシブ(包摂)」「まちづくり」をキーワードに、有識者が議論を展開。
・日常的なまちづくり活動や祭りなどの地域行事は、防災を前面に出して実施されてはいないが、そこに集まり、関わることで人々のつながりが生まれ、結果として防災・減災の面で大きな力を発揮する。
・地域で積極的にまちづくりに取り組んでいても、過疎化・高齢化は止まらず、地域のつながりが弱まっていく状態にある。こうした中、地域を開いて、外から来る他人(来訪者・研究者等)を受け入れて一緒に動くことが、これからの防災やまちづくりには重要になってくる。
・色々な人を包摂する(インクルーシブである)ことは社会としては当たり前のこと。しかし、災害発生時にはまさに一番弱い立場の人たちが犠牲になっていくという現実がある。
・防災の取り組みにうまく乗ることが出来る人・出来ない人を隔てる壁を、少しずつでも崩していく取り組みがインクルーシブな防災への一歩になる。

22 令和元年度(第22回) お弁当・おむすびコンテスト

小･中学生、高校生がごはん(お米)食に親しみ、興味を深める機会を創出するため、ごはん中心のヘルシーでお弁当箱を開けるのが楽しくなるような「ごはんお弁当」や、大切な人への感謝や愛情を込めて、創意工夫をこらした「アイデアおむすび」を募集し、広く県民に紹介した。

今年度は阪神・淡路大震災から25年のため、「阪神・淡路大震災を忘れない」という思いが込められていることを応募条件のひとつとし、この思いがより込められている作品を震災25年特別賞とした。

1 応募

(1) 応募期間 令和元年６月14日(金)～９月20日(金)
(2) 応募総数 9,863点(お弁当コンテスト：3,918点、おむすびコンテスト：5,945点)

2 第一次審査(書類審査)

(1) 日 時 令和元年10月９日(水) ９：30～15：30
(2) 場 所 兵庫県米穀事業協同組合事務局
(3) 審査員 公益社団法人兵庫県食生活改善協会
株式会社大丸松坂屋百貨店大丸神戸店
公益財団法人兵庫県体育協会兵庫県学校給食･食育支援センター
兵庫県米穀事業協同組合、兵庫県教育委員会事務局
兵庫県企画県民部、兵庫県健康福祉部、兵庫県農政環境部

3 最終審査(現物審査)

(1) 日 時 令和元年11月30日(土)13：30～15：45
(2) 場 所 兵庫県私学会館 大ホール
(3) 審査員 神戸女子短期大学 教授 西川 貴子
一般社団法人全日本司厨士協会関西地方･兵庫県本部 副会長 西久保 節文
公益社団法人兵庫県栄養士会 会長 榊 由美子
公益社団法人兵庫県食生活改善協会 副理事長 金谷 滋子
神戸新聞社 論説委員 藤井 洋一
株式会社大丸松坂屋百貨店大丸神戸店営業３部 販売促進担当 堀井 由里
兵庫県農政環境部農政企画局総合農政課楽農生活室 室長 有方 千裕
(4) 最終審査の様子

4 結果

(1) 選考経緯

区分	応募数	最終審査対象作品	入賞作品	佳作
あけてニッコリ！！ わくわくお弁当コンテスト	3,918点	12点	7点	5点
見て楽しい！食べておいしい！ おむすびコンテスト	5,945点	12点	7点	5点
計	9,863点	24点	14点	10点

(2) 入賞作品(抜粋)

ア あけてニッコリ！！わくわくお弁当コンテスト

受賞区分	最優秀賞(兵庫県知事賞)	震災25年特別賞
作品名	宍粟の恵みにありがとう弁当	節電 節水のお弁当
お名前 (学校名)	阿曽 真奈穂さん (宍粟市立山崎南中学校)	福島 愛理さん (神戸女学院中学部)
作品写真		

イ 見て楽しい！食べておいしい！おむすびコンテスト

受賞区分	最優秀賞(兵庫県知事賞)	震災25年特別賞
作品名	「ま･ご･わ･や･さ･し･い」 笑顔の花おむすび	皆んなでわいわい！たこ焼きおにぎり
お名前 (学校名)	木村 沙耶さん (神戸市立筒井台中学校)	馬明 杏梨さん (伊丹市立西中学校)
作品写真		

5 表彰式(最優秀賞受賞者を対象に実施)

(1) 日 時 令和２年２月８日(令和元年度お米･ごはん推進フォーラムにて実施)
(2) 場 所 兵庫県公館

23 女性消防団員活性化大会

消防団員の更なる確保と活動の充実強化を図るため、火災予防の普及啓発や応急手当指導、避難所運営等様々な場面で活躍が期待される女性消防団員等が一堂に集う大会を、公益財団法人兵庫県消防協会と共催で開催しました。

1　日時・場所

令和元年８月25日(日)12:30～15:30
兵庫県教育会館ラッセホール
(参加者　約350人)

2　プログラム・内容

(1) 開会挨拶
岸谷　義雄（公財）兵庫県消防協会会長
金澤　和夫 兵庫県副知事

(2) 事例発表
①『長田救命体操』
神戸市長田消防団　女性団員
楯川　美穂子 部長
・老若男女が誰でも参加できるようにした、心肺蘇生法を楽しく実践できる内容のオリジナルソングを紹介。

②『灘防災ソング　エブリデイＢＯＳＡＩ』
神戸市灘消防団　女性団員
下西　直子 分団長
・日常の防火・防災で注意すべき事項を明るくリズミカルに覚えられるオリジナル曲を披露。

③『～私たちの活動～「防災・減災への道」』
小野市消防団女性分団　サンフラワーズ119
岡田　ひろみ 副分団長
佐藤　禄会 部長
・自分たちの住んでいる地域の実例を盛り込んだ、参加者にもわかりやすい避難所運営研修への取組みを紹介。

④『防災ソングで防火防災啓発～きっと大丈夫！～』
川西市消防団第11分団
チェリーファイアー
松浦　美幸 分団長
加藤　英里 班長
・女性分団結成25年を機に制作したオリジナル防災ソングで、新たな防火防災啓発活動を実施。

(3) 報告
○『消防団幹部候補中央特別研修へ行こう！！』
三田市消防団女性班
樽口　知加 班長
・第18回消防団幹部候補中央特別研修会で学んだ内容をフィードバックし、研修会への参加を促進。

(4) 講演
○『消防団が創る未来（あした）の防災』
谷口　由美子氏
（元東京消防庁丸の内消防署長）
・「新時代に対応した消防団運営のあり方に関する講座」として、地域防災としての消防団活動にも、避難所の運営にも女性の視点が不可欠であること、団員の確保や活動の充実に向けて「存在感をアピールすること」の重要性などについて講演。

(5) 閉会のことば
尼崎市消防団
あまがさきファイヤーフェアリーズ
濱田　百合子 部長

24 国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告シンポジウム

阪神・淡路大震災25年にあたり、復興のシンボル・プロジェクトのひとつとして整備された神戸東部新都心（HAT神戸）の意義やそこを中心に集積する「国際防災・人道支援協議会(DRA)」を構成する団体の活動等を地域住民など広く県民に紹介することで、DRAとしての総合的な発信力を高めるとともに、各機関の連携をより一層強化し、活動の更なる活性化を図るため、「国際防災・人道支援協議会（DRA）活動報告シンポジウム」を開催した。

1　日時・場所

令和元年８月27日（火）　15:00～17:00
JICA関西２階　ブリーフィングルーム
（参加者　約110人）

2　プログラム

(1) 基調講演「大災害時代の日本列島～人間の安全保障に向けて～」

【講　　師】五百旗頭　真　DRA会長（ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）

【主な内容】

・「公共施設の復興は、元に戻すなら国が面倒を見る。より良いものにしたいなら地元負担で」「私財の損害には国費は投入しない」という考え方であったが、阪神・淡路後、兵庫県からの提案、全国知事会の支持、2,500万人の署名等の効果もあり、初めて個人補償が認められその後拡充されている。

・人々も「家族の面倒は家族で見なさい」「他所のことに口出ししない」という考え方から、阪神・淡路では130万人のボランティアが活躍し、その後中間支援組織にも経費が支給され、NPO法人という制度ができた。

・被災地支援も、要請主義からプッシュ型へ、自治体間や同業種の民間企業間の支援体制構築等大きな進化を遂げている。

・被災経験を持った兵庫の人たちが、生活復興こそが全体の復興の土台であり、もっとも弱い人たち一人一人にまで手をさしのべていく生き方、それに向かっての努力というものが必要であると考える。

(2) 団体発表

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】河田　惠昭　DRA会長代行（人と防災未来センター長）

①吉田　明子　国際連合人道問題調整事務所（UNOCHA）神戸事務所長

「国際緊急人道支援と日本」

【主な内容】

・日本政府や国内外の人道支援団体との連携強化を進めている。

・日本人に深く広く根ざしている思いやりの心で、人道支援活動への理解を。

②西野　恭子　国際協力機構関西国際センター(JICA関西)所長・国際防災研修センター長

「防災分野におけるJICAの国際協力」

【主な内容】

・防災事業での国際的な研修事業を実施している。

・国連のSDGs（持続可能な開発目標）について、全ての目標に防災が関連している。

③塚田　源一郎　アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）センター長

「地球温暖化時代の国際環境協力」

【主な内容】

・経済・社会発展と環境保全について、同時に統合的に取り組んでいく必要がある。

・各国・地域が有する知識やノウハウを共有し、活用していくことが重要である。

④茅野　龍馬　世界保健機関（WHO）健康開発総合研究センター医官

「災害・健康危機管理 (Health-EDRM)に関する世界の動きとひょうご・神戸・日本の貢献」

【主な内容】

・災害健康危機管理の重要性が高まっており、健康面から防災へ取り組んでいく。

・日本しか持っていない知見を、世界とコラボすることにより広げていきたい。

(3) 総　括

河田　惠昭　DRA会長代行（人と防災未来センター長）

【主な内容】

・日本は、幸いなことに戦争、災害、疫病で国がひっくり返るような事態を経験していない。したがって国民の多くは、首都直下型地震、南海トラフ地震といっても「なんとかなる」と考えている。

・しかし、外国の多くは過去にこのような悲惨な事態を経験している。

・日本が防災面で世界に貢献することは大切であり、当然のことでもあるが、世界から日本が学ぶべき事も多くあることをこのDRAシンポジウムを通じてご理解いただけたら幸いに思う。

25 減災復興国際シンポジウム

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科に博士後期課程が開設されたことを記念し、「阪神・淡路大震災から25年」をテーマとしてシンポジウムを開催した。国内外の専門家を迎え、参加者とともに過去の災害からの学びを共有し、未来へ継承すべき教訓について考える場となった。

1　日時・場所

令和元年10月4日(金)13:30～17:00
国際健康開発センタービル9階　国際会議室
(参加者　約120人)

2　プログラム・内容

(1) 開会挨拶　　太田 勲(兵庫県立大学学長)

(2) 博士後期課程学生紹介

湯井恵美子、立部知保里(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科　博士後期課程1期生)

(3) 特別講演

1.「阪神・淡路大震災からの遺産：25年の災害復興理論」

【講　　師】ロバート・オルシャンスキー（イリノイ大学名誉教授）

【主な内容】1994年のロサンゼルスのノースリッジ地震と阪神・淡路大震災を比較した研究についての内容を紹介。復興の質と速度のバランスなど、研究者としての立場から理論を解説した。神戸の経験からの教訓として、例えば、地域の人たちと一緒に復興に取り組むこと、コミュニティーのサービスや地域ネットワークについて考えること等の重要性を指摘した。

2.「阪神・淡路大震災からの遺産：25年の災害復興実践」

【講　　師】ローリー・ジョンソン(ローリー・ジョンソン・コンサルティング代表)

【主な内容】コンサルタントとして世界の災害後の復興に関わってきた実践を紹介。阪神・淡路大震災からの学びを活かし、サンフランシスコにて防災計画を行っている例などを紹介した。
復興において重要なのは、建物やインフラの再建だけではなく、社会制度、政治・経済、また、自然環境など様々な観点から考えた上で復興を行うことであると述べた。また、神戸でのあの日を忘れない、風化させないという取り組みも非常に重要とのことだった。

(4) パネルディスカッション

【テ ー マ】「阪神・淡路大震災から何を学び未来に伝えるのか」

【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】ロバート・オルシャンスキー（イリノイ大学名誉教授）
ローリー・ジョンソン(ローリー・ジョンソン・コンサルティング代表)
小林 郁雄(人と防災未来センター上級研究員、兵庫県立大学特任教授)
大西 一嘉(神戸大学大学院工学研究科研究員)

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】澤田 雅浩(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授)

【主な内容】阪神・淡路大震災の際に復興計画に携わっていた大西氏、小林氏を加え、当時を振り返り、また参加者からの質疑応答を交え、教訓について考察した。柔軟性のある都市計画事業やまちづくり協議会の重要性、いろいろな立場の人が情報共有し、教訓や学びを伝承できる環境が大切であるなど、活発な意見交換がなされた。

(5) 閉会挨拶　　室﨑 益輝(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長)

■ 同時開催：国際防災・人道支援協議会（DRA）パネル展

当日は同会場にて、国際防災・人道支援協議会(DRA)の参加機関によるパネル展を併せて開催した。兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の他、人と防災未来センター、国際復興支援プラットフォーム(IRP)、JICA関西/国際防災研修センター等、HAT神戸にある防災関係機関を紹介したパネルを展示した。

26 阪神・淡路大震災25年メモリアル特別展示 1995.1.17から25年 「振り返る阪神・淡路大震災」

この特別展示では、2020年１月17日で25年を迎える阪神・淡路大震災を、「人と防災未来センター」所有の写真やデータ、実物資料、映像等で振り返り、震災の教訓や減災の大切さを広く発信する特別展を開催した。

1　日時・場所

(1) 第１期：令和元年９月20日(金)～10月12日(土)
兵庫県公館県政資料館展示室７
(2) 第２期：令和元年10月19日(土)～令和２年２月15日(土)
兵庫県公館県政資料館展示室５・６

2　展示内容

(1)【テーマ】「地震直後」　1995（平成７）年１月17日～
【主な内容】・被害直後の状況を示す写真パネルの展示　・震災の衝撃を伝える実物資料の展示
・被害状況を記したデータパネルの展示　・被災地の３Ｄ記録映像の上映　等

(2)【テーマ】「応急・復旧期」　1995（平成７）～1999（平成11）年頃
【主な内容】・避難所での生活等を示す写真パネルの展示
・被災者への支援を伝える実物資料の展示
・避難状況を記したデータパネルの展示　等

展示室５（第２期）

(3)【テーマ】「復興期」　2000（平成12）～2004（平成16）年頃
【主な内容】・震災後の復興過程を示す写真パネルの展示
・復旧・復興への励ましのメッセージ等の実物資料の展示　等

(4)【テーマ】「ポスト復興期」2005（平成17）年以降
【主な内容】・震災からの復興を示す写真パネルの展示
・タッチパネルによる復旧・復興のデータ閲覧　等

展示室６（第２期）

27 天皇陛下御即位記念 阪神・淡路大震災25年特別写真展

皇室と兵庫の25年－ともに歩んだ震災からの創造的復興

阪神・淡路大震災から25年の節目を迎えるにあたり、震災を知らない世代も増え、人も新しい時代へと移りゆく中、震災時に私たちを支えてくださり復興に寄り添い歩んでいただいた皇室のお姿とともに写真、動画で25年を振り返る特別展を開催した。

1　日時・場所

令和元年10月19日（土）～令和２年２月15日（土）
兵庫県公館県政資料館展示室７

2　展示内容

(1)【テ ー マ】「阪神・淡路大震災　復旧・復興過程における被災地お見舞いとご激励」
【主な内容】 被災地お見舞い、合同慰霊祭ご参列時等の写真パネルの展示

(2)【テ ー マ】「阪神・淡路大震災　創造的復興の歩み」
【主な内容】 人と防災未来センター開館記念式典ご臨席、第61回国民体育大会ご臨場時等の写真パネルの展示

(3)【テ ー マ】「皇室とともに歩んだ平成の兵庫」
【主な内容】 1.17のつどい－阪神・淡路大震災15周年追悼式典－ご臨席、第100回全国高等学校野球選手権記念大会ご臨場時等の写真パネルの展示

(4)【テ ー マ】「兵庫トピックス」
【主な内容】 創造的復興をめざして総合フォーラム開催等皇室ご来県時の映像上映（県政ニュース映像）

28 水道災害に備えた実務訓練

企業庁では、災害時に迅速な相互応援を行うことを目的に、例年県内水道事業体とともに「応急給水実務訓練」等、応援する立場での訓練を実施しているが、本年は阪神・淡路大震災25年記念事業として、被災時に円滑な応援を受けることを目的とした「受援図上訓練」を新たに実施した。

「受援図上訓練」では、大阪北部地震の際、水道事業体等からの応援を受けた高槻市水道部による基調講演及び早期復旧に欠かせない「受援」を主題にワークショップを実施した。

また、「応急給水実務訓練」では、水道事業体の訓練とともに、近隣の小学生も参加して、給水車からの給水を体験し、水の大切さと断水した時の大変さを学んでもらった。

1　受援図上訓練

(1) 日時・場所

令和元年10月25日(金)11：00～17：00

神戸市教育会館(参加：県内水道事業体34団体、51人)

(2) 基調講演

「大阪府北部地震における高槻市水道の状況と対応」

【講師】高槻市水道部　森　球美子　氏

【主な内容】

・地震の断水で応援に来てもらった団体に、避難所などへの給水について配車計画等を含む一連の業務を一括して任せたことで給水活動がスムーズに進んだ。

・応援をスムーズに受けるためには、受援マニュアル作成等の準備が必要である。

・いざという時に、スムーズな応援活動を行うためには、日頃から近隣の水道事業体とのコミニケーションを図っておく必要がある。

(3) ワークショップ

基調講演を踏まえ、自らが被災団体となった場合を想定し、①発災からの初期活動の内容、②初期活動から復旧活動へ進み、限られた時間と人員の中で応援団体に任せることができる業務、③円滑な応援を受けるため事前に検討が必要なものについて、ワークショップにより議論を交わし、参加者間で認識を深めた。

2　応急給水実務訓練

(1) 日時・場所

令和元年10月29日(火)12：30～17：00

県営多田浄水場

(参加：県内水道事業体30団体65人及び猪名川町立白金小学校４年生80人)

(2) 災害に備えた実務訓練

①応急給水装置から給水車への注水訓練

災害により断水が発生した場合は、各事業体が持つ給水車を被災団体に派遣し、公園や学校などの避難所に水道水を運ぶ。今回、給水車に浄水場の応急給水装置を使ってタンクに水道水を満たす訓練により、応急給水装置から給水車へのホース接続手順や各種バルブの操作方法を習得した。

②仮設タンク組立、設置、注水訓練

避難所などにおける一般の方への応急給水活動は、水道水を一時的に貯めることのできる仮設タンクを設置することで、給水車を一カ所に長時間拘束せず効率よく応急給水活動ができる。今回の訓練では、容量４m^3の仮設タンクを使用し、その組み立てから注水作業までの一連の工程を実践した。

③小学生による応急給水体験および浄水場見学

災害等により一般家庭で断水が発生したときを想定して、実際に給水車から水道水を受けとる方法を小学生に体験してもらった。この体験にあたっては背中に背負うことができるビニール製の給水パックを使用し、その使い方を学んだ。また、浄水場内の施設を見学し、水道水ができるまでの工程も学習してもらった。

④地震等の災害リスクを低減する製品の展示

継手等に柔軟性をもつ耐震用弁類や、約１万分の１mmの小さな穴が無数に空いた膜によるろ過で河川水等から水道水を製造できる緊急用浄水装置等を展示した。緊急用浄水装置では、河川水を使って浄水実験を行い、水道実務経験の短い参加者からはとても分かりやすいと好評だった。

29 阪神・淡路大震災25年 兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念「こころのケア国際シンポジウム」

阪神・淡路大震災を契機に生まれた「こころのケア」の取り組みがどのように変化してきたのか、将来の災害に備えるため、「災害とレジリエンス」をテーマに、傷ついた人々を回復させると同時に地域社会としてのレジリエンスをいかに高めるかについて考えるシンポジウムを開催した。

1　日時・場所

令和元年11月7日(木)13:00～17:45
神戸ポートピアホテル(参加者　約240人)

2　プログラム・内容

(1) 開会挨拶
金澤和夫(兵庫県副知事)
五百旗頭真(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

(2)「兵庫県こころのケアセンター15年の活動」
【報告者】加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)
【主な内容】
・当センター15年の活動を振り返り、この間、国内外の災害、事故に対し現地に出向き支援を行ってきたことを報告

(3)《基調講演１》「東日本大震災後の子どものこころのケア　～8年間の診療と研究から見えること～」
【司会】大澤智子(兵庫県こころのケアセンター研究主幹)
【演者】八木淳子(岩手医科大学神経精神科学講座講師／いわてこどもケアセンター副センター長)
【主な内容】
・東日本大震災後に取り組んできた臨床と研究の両面から、被災した子どもたちの心の問題にどう関わってきたか。トラウマインフォームドケアの気持ちをもって、長期的な見守りや適切な介入が重要であるとの報告

(4)《基調講演２》「アメリカの災害後の心理社会支援：教訓、最近の動向、および災害救援者への支援」
【司会】大澤智子(兵庫県こころのケアセンター研究主幹)
【演者】パトリシア・ワトソン(アメリカ国立PTSDセンター教育専門官)

【主な内容】
・アメリカの心理社会支援の長い歴史を踏まえ、災害精神衛生プログラムと介入の経験則から学んだ教訓、災害救援者などの初期対応者とその家族を支援するための考える枠組、“サイコロジカル・ファースト・エイド”を紹介

(5) パネルディスカッション
〔前半〕
《パネラー報告１》「インドネシアでの被災者の心のケアについて：心理支援―災害精神保健」
【司会】加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)
【報告者】エニ・ヌライニ・アグスティニ(インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学精神保健看護学部講師)
【主な内容】
・インドネシアで発生したロンボク島地震やスンダ海峡津波の被害に対応した現地での心理社会的支援活動を紹介。横のつながりや地方自治体が災害後の精神保健上の問題に意識を向けることが重要であるとの報告

《パネラー報告２》「福島原発事故が与えたメンタルヘルスへの影響：どのように乗り越えるべきか？」
【司会】加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)
【報告者】前田正治(福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授)
【主な内容】
・原発事故の被災地福島では現在でも未だ厳しい状況が継続しており、避難住民においてもスティグマに晒される等の問題が生じている。アウトリーチ・サービスの提供で一定の効果は上がっているが、政府や自治体による長期的な支援が不可欠であると報告。

〔後半〕
《パネルディスカッション》
【司会】加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)
【ﾊﾟﾈﾗｰ】八木淳子、パトリシア・ワトソン、エニ・ヌライニ・アグスティニ、前田正治
【主な内容】
・当時の貝原知事が、被災前より良い社会を作ろうという意味で「創造的復興」という言葉を使われた。当時の政府は受け入れなかったが、その後の災害では当然の考え方になった。阪神・淡路大震災が残した被災地域全体のレジリエンスを高めるためのモデルだった。
・スティグマを減らすためには正しい情報を伝えていくことが重要だ。
・慢性期の支援者のストレスは大きい。批判ではなく称賛すべきとの啓発が必要。リーダーや上司がスタッフに感謝を伝えることも大切。災害後、アドレナリンが出ている間は疲労に気づかず、やがて慢性ストレスが引き金となって自己免疫疾患が出てくる。セルフケアも大切だ。
・阪神・淡路大震災では、災害支援者、特に消防士や自衛隊員が傷ついたことに、日本の文化の中で初めて光を当てることができ、惨事ストレス対策が進んだ。
・兵庫県こころのケアセンターの活動を通じて「こころのケア」という言葉が根付いた。東北でも精神的な支援が広く受け入れられるようになった。

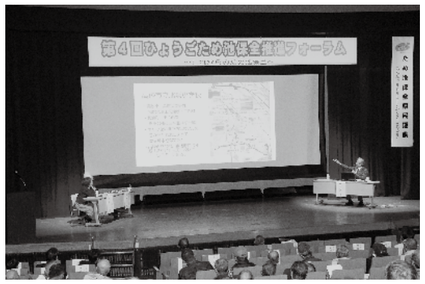
30 ひょうごため池保全推進フォーラム

県では本年６月に、ため池の情報を適切に把握し、決壊による災害を防止するため、「ため池の保全等に関する条例」を改正した。

阪神・淡路大震災から25年の節目を迎え、ため池管理者や県民のさらなる防災意識の醸成を図り、ため池の適正な管理や多面的機能の発揮を促進し、地域の貴重な財産であるため池を次世代につなぐ「ため池保全活動」を県内各地に拡大させるため、本フォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和元年11月14日(木) 13：30～16：00
加東市滝野文化会館　（参加者　約350人）


事例発表の様子

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶

兵庫県農政環境部長 寺尾 俊弘

(2) 基調講演「ため池の自主防災・減災力の向上」

【講　師】国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (以下、農研機構)
農村工学研究部門 技術移転部 教授　重岡 徹

【主な内容】

・平成30年７月豪雨等を踏まえ、国はため池の改修整備によるハード対策を加速させるとともに、改修するまでの間はハザードマップ等によるソフト対策を推進。
・ソフト対策を効果的に推進するには、ため池管理者のほか周辺住民が平時から地域に起こりうる災害リスクを我がこととしてとらえる意識（我がこと防災意識）を持ち、防災意識を持続することが重要。
・ため池の自主防災・減災意識の維持・向上手法として、災害時の避難行動指針づくり、雨量等の自主観測システムの導入、スマートフォンを活用したため池点検システム等を紹介。

(3) 事例発表

【ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ】農研機構　農村工学研究部門 技術移転部 教授　重岡 徹
【ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ】国立明石工業高等専門学校　建築学科　教授　工藤　和美

事例発表１「曽我地区ため池の適正管理にかかる取組」
【発表者】曽我流域活動協議会代表　古丸　剛　（加東市　後藤　直樹）
【主な内容】

・昭和50年代から国の補助制度を活用して基盤整備と合わせてため池改修等の防災工事を実施。
・平成27年からはため池や周辺環境に対する地域住民の理解を深め、集落ぐるみで農業用施設を保全管理できる体制づくりに着手。
・ため池の役割やため池保全活動の必要性にかかる地域住民の理解は深まってきた。今後は新たに活動組織を立上げ、活動を拡大していく予定。

事例発表２「真南条地区(丹波篠山市)における都市住民とともに取組むため池保全活動」
【発表者】真南条土地改良区　理事長　酒井　勇
【主な内容】

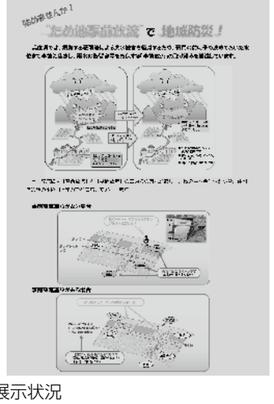
・集落の高齢化等によりため池の維持管理作業が困難になる一方、特別栽培米の作付けを通じて米の品質を左右する水の大切さを再認識し、用水源であるため池の保全活動を平成27年度から開始。
・農村ボランティアや都市住民の受け入れを開始し、ため池のかい掘りや草刈り等の維持管理作業を協働して実施。
・豪雨時の下流地域の被害を軽減させる事前放流など多面的機能の発揮促進につながる活動にも着手。
・今後も農村ボランティアや都市住民とともに、ため池の保全活動を継続していく予定。

事例発表３「ため池」ふるさと学習－『北浜っていいな』地域と共に育む－
【発表者】北浜小学校　校長　西岡　健
【主な内容】

・平成27年から地域・行政・学校が一体となり、「ため池」を中心に先祖代々受け継がれてきた田んぼづくりやかいぼりなどを直接体験する教育プログラムを実践。
・次世代を担う子ども達は、体験学習を通じて地域の豊かな自然環境や文化を知り、ふるさとの良さを認識。
・学校と地域が連携して体験学習に協力し、子ども達の「ふるさと意識」を育んでいる。また、協力した地域住民の間で新たな交流が発生しており、今後も地域や行政と協力し、この体験学習を継続していく予定。

(4) パネル展示

・兵庫県におけるため池施策の概要
・ため池保全サポートセンターの取組
・ため池事前放流の取組


パネル展示状況

31 大規模災害を想定した災害救援ボランティア連携訓練

兵庫県災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議（事務局：ひょうごボランタリープラザ）（以下、「支援団体連絡会議」）が主体となり、南海トラフ巨大地震を想定し、被災市町域での困りごとへの対策や支援方策、また災害対応に関する応援・受援体制の構築を目的とした訓練を実施した。

1　日時・場所

日　時：令和元年12月４日（水）10:00～17:10
場　所：神戸クリスタルタワー３階　クリスタルホール
参加者：支援団体連絡会議構成員、市町・市町社協・県民局・県民センター職員、NPO、学識者　等（68団体99名）

2　プログラム、内容

(1) オープニング

主催者挨拶　ひょうごボランタリープラザ所長　高橋 守雄

(2) 事例紹介（鼎談）：「東日本大震災における応援と受援の取組」

【ファシリテーター】
神戸大学学生ボランティア支援室
ボランティアコーディネーター　東末 真紀 氏
【事例報告者】
ボランティア山形　代表理事　井上 肇 氏
米沢市避難者支援センター「おいで」上野 寛 氏
【主な内容】
・東日本大震災における応援・受援の取組紹介を通して応援・受援体制の必要性を学んだ

(3) 訓練

【ファシリテーター】被災地NGO協働センター　代表　頼政 良太 氏
【アドバイザー】　神戸学院大学現代社会学部社会防災学科　教授　前林 清和 氏
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長　明城 徹也 氏
日本ファシリテーション協会　杉村 郁雄 氏
ひょうご市民活動協議会（HYOGON）運営委員　野崎 隆一 氏
神戸まちづくり研究所　副理事長　松原 永季 氏
神戸まちづくり研究所　理事・事務局長　浅見 雅之 氏

① 災害図上訓練（DIG）
【主な内容】
・本格的な応援・受援内容を検討する基礎とするため、県民局単位の地域でグループに分かれ、震度分布、浸水域等の被害状況を地図上に可視化し、支援拠点等の設置場所を検討する訓練を実施

② 応援、受援に分かれた訓練
【主な内容】
・受援側（淡路及び瀬戸内海沿岸部）と応援側（県北部・内陸部）に分かれてカウンターパートを設定し、応援・受援内容を検討

(4) 情報共有会議

【司会・進行】　神戸まちづくり研究所　副理事長　松原 永季 氏
【グラフィッカー】神戸まちづくり研究所　理事・事務局長　浅見 雅之 氏
【アドバイザー】　全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長　明城 徹也 氏
【主な内容】
・「災害図上訓練（DIG）」及び「応援、受援に分かれた訓練」において、各グループで検討した内容を共有

(5) 講評

兵庫県立大学大学院　減災復興政策研究科
研究科長・教授　室﨑 益輝 氏
・被災者の個別支援など行政では対応できないニーズに対応するのが災害ボランティアセンターの役目である。しかし災害ボランティアセンターだけですべてのニーズに対応する必要はない。できないものは他につなぎ、結果的に解決できればよい。そのためのネットワークづくりが大切である。
・応援側も組織体として連携し、また現場でのニーズを想像しながら支援することが重要だ。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）　事務局長　明城 徹也 氏
・県域で行政や社協、NPO等多様な主体が顔を合わせて訓練を行っていることは少なく、今回の訓練は全国的にみて貴重な取組である。
・想定される被災者の様々なニーズの対応について、予め地域の関係者で協議し、備えておくことが重要であり、この訓練がそういった取組につながってほしい。

32 神戸ルミナリエ開催事業

震災犠牲者の鎮魂と都市の復興・再生への祈りを込めて灯され、人々に希望と勇気をもたらすイメージシンボルとしての役割を担い、神戸の冬の風物詩として定着している「神戸ルミナリエ」の開催を支援した。

1　対象事業

神戸ルミナリエの実施に必要な経費のうち、本体制作費と広告宣伝費で知事が必要かつ適当と認めるもの

2　支援内容

神戸ルミナリエ組織委員会に対する補助金の交付

3　支援実績

45,210千円

トピックス（第25回神戸ルミナリエの開催結果）

(1) 実施団体名

神戸ルミナリエ組織委員会（兵庫県、神戸市、神戸商工会議所、公益社団法人ひょうご観光本部、一般財団法人神戸観光局で構成）

(2) 日時・場所

令和元年12月６日（金）～12月15日（日）10日間

（点灯時間）　月～木曜日　18:00頃～21:30
　　金曜日　　18:00頃～22:00
　　土曜日　　17:00頃～22:00
　　日曜日　　17:00頃～21:30

旧外国人居留地／東遊園地（神戸市中央区）

(3) 内　容

・仲町通りに玄関作品「フロントーネ」（高さ約22mで３連の門状）と光の壁掛け「スパッリエーラ」を配置し、東側へ回廊状の作品「ガレリア」を連ねた。総延長約270m。
・第25回の特別な演出として仲町通りの伊藤町筋から東のブロックをメモリアルゾーンとして、白熱電球による壁状の作品を展開した。
・東遊園地では、高さ約21mに至る巨大なドーム状の作品とその四方に光の尖塔を配置し、間を光の壁掛けで結んだ。
・慰霊と復興のゾーンでは、「1.17希望の灯り」を今回初めて高さ約４mのアーチで飾った。

(4) 来場者実績

3,469,000人（一日あたり346,900人）

フロントーネとスパッリエーラ

© Kobe Luminarie O.C.

東遊園地作品

© Kobe Luminarie O.C.

ガレリア（メモリアルゾーン出口）

© Kobe Luminarie O.C.

ガレリア（メモリアルゾーン入口）

© Kobe Luminarie O.C.

33 兵庫県立大学フォーラム「人を守る減災の科学」

1　日時・場所

令和元年12月12日(木)13：30～16：30
兵庫県公館大会議室(参加者　273人)

2　プログラム内容

(1) 開会挨拶
兵庫県立大学理事長　五百旗頭　真

(2) 兵庫県知事からメッセージ
「25年、復興への思い」

(3) 第1部　研究成果報告「人を守る減災の科学」
兵庫県立大学で防災・減災について様々な研究が積み上げられており、人を守る科学の一端を担う4人の研究者から研究成果を報告いただくとともに、WHO健康開発総合研究センターの取り組みについて報告を行った。

①「人を守る／都市シミュレーション」兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科 准教授　大谷英之

「京」コンピュータに代表される高性能計算機を活用した数値シミュレーションの技術は、単一の災害に対する研究・開発の段階から複合災害や復旧対応、経済への影響を対象とする段階に進んでいる。最新の研究動向を概観し、地域への技術展開の文脈において兵庫県立大学が果たす先導的な取り組みについて紹介。

②「人を守る/災害対応マネジメント」兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授　紅谷昇平

災害時には、平時とは異なる災害対応業務を、資源等の制約がある環境で実施するなどの困難がある。過去の災害では、災害対応に適した組織形態や情報フロー、空間配置、業務プロセス等のあり方が、経験則的に模索されてきた。これら実践的な教訓を体系化し、未来の災害に備えたマネジメント手法として確立させることが求められていると説明。

③「人を守る/コミュニティ防災」兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授　馬場美智子

阪神・淡路大震災では、地震発生直後にご近所の助け合いが大きな力となり、復興期には、ご近所づきあいが人々の心の支えとなった。
また、コミュニティの取組は防災・減災においてもその重要性が認識されている。地域防災力向上の鍵となる共助力を育むコミュニティを形成する上で重要なことについて、事例を交えて講演。

④「人を守る/災害時の看護」兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長 増野園恵

災害は、人々の生活を一変させ、生活の変化は人々の心身の健康に大きな影響を及ぼす。災害後の被災生活によって命が奪われる事態も発生している。阪神・淡路大震災以降、災害によって影響を受ける人々の生活と健康を守る看護援助について研究が進められてきた。災害から人々の命、生活と健康を守る看護についての研究成果を紹介。

⑤「地元と世界をつなげる災害対策と健康危機管理への取り組み」
WHO健康開発総合研究センター医官　茅野龍馬
阪神・淡路大震災の創造的復興のシンボルとして誘致された国連の機関であるWHO健康開発総合研究センターの災害・健康危機管理に関する取り組みについて説明。

(4) 第2部　鼎談「阪神・淡路大震災の体験は 社会や科学に何をもたらしたか」
兵庫県立大学理事長　五百旗頭　真
神戸市看護大学学長、兵庫県立大学名誉教授　南　裕子
兵庫県立大学減災復興政策研究科長　室﨑　益輝(コーディネーター)

減災復興、政策、被災者支援など幅広い分野で重要な役割を果たしてこられた3人の識者に阪神・淡路大震災以降の減災復興の社会の在り方について討議。
南氏は、阪神・淡路大震災の前は「災害看護」という概念がなく、被災者の視点で自ら日本災害看護学会を設立した経緯を振り返った。
五百旗頭氏は阪神・淡路大震災以降、国内で災害が相次ぐ中、国家の安全保障を越えた「人間の安全保障」が重みを増したと指摘。「人」を中心に復興をとらえる重要性を改めて強調した。
室﨑氏は、全国の被災地で唯一、展示施設を備えた人と未来防災センターは兵庫の強みであるとし、人材育成と科学研究は車の両車輪、兵庫県立大学も一翼を担う責任があると総括した。

(5) 閉会挨拶
兵庫県立大学学長　太田　勲

34 人と防災未来センター 震災25年特別展示

震災25年を機に、改めて被災地の面的な広がりや被害の大きさを来館者に理解していただくための被災地図を展示するとともに、普段は収蔵庫に保管され目に触れる機会がなかった現物資料や写真などを特別展示で公開した。

1 日時・場所

令和２年１月２日(木)～７月12日(日)
※世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で３月３日午後から５月末まで臨時休館を行った。

人と防災未来センター西館１階ロビー（無料ゾーン）

2 内容

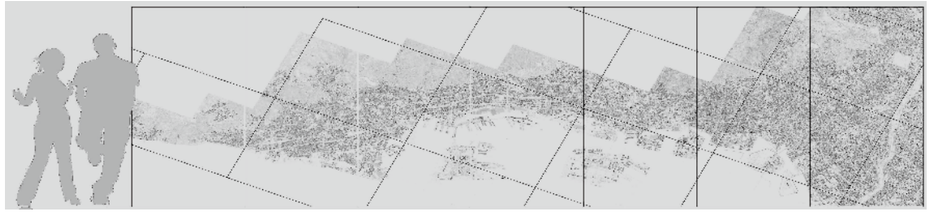
(1) GISで見直す被災地図

震災直後、多くの研究者や学生等の人海戦術により、建物の被災状況を克明に記録した調査地図が作成された。当時の手描きによる地図は、一部でデジタル化が進められたが、公開されて来なかった。

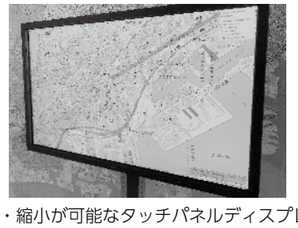
震災25年を機に、多くの研究者等が活用しやすいよう、人と防災未来センターが中心となって被災地全体のデジタル地図を作成した。

その成果の特別展示として、パネル全面に大型地図を展示するとともに、デジタル地図の拡大・縮小の操作ができるタッチパネルディスプレイを設置し、被災地の面的な広がりや被害の大きさを来館者に実感していただいた。

また、展示開催中の２月19日(水)に、「デジタルデータ化の推進と今後の可能性」と題するセミナーを実施し、被災地図GIS化の概要、意義を紹介するとともに、今後の活用可能性についてパネルディスカンションを行い、今後のデジタルデータの保管・活用は人と防災未来センターが行うことで、関係者の理解が得られた。



神戸市から阪神間の５千分の１（縦 2.1m ×幅 6.3m）被災地図



拡大・縮小が可能なタッチパネルディスプレイ

震災 25 年特別展示関連セミナー

(2) 公開：新たなる震災資料

当センター資料室が所有する約19万点の所蔵資料の中から、常設展示では公開されていない現物資料、紙資料、写真資料44点を選定し展示した。

展示に先だって、震災を経験していない地元の神戸市立渚中学校生が、収蔵庫に保管された震災資料の中から資料を選定し、資料の紹介文を作成するワークショップを実施した。

震災資料選定にあたって渚中学校生のワークショップを実施

阪急伊丹駅で被災した阪急電鉄 3109 車両前面扉など

国の復興対策本部事務局に掲げられていた「がんばろや！ WE LOVE KOBE」横断幕など

35 東日本大震災 被災者招へい事業2020

東日本大震災被災者をはじめ、現地で支援活動を行っている大学生や団体職員、小中学校の生徒を神戸に招き、震災体験の共有を行い、今後の復興について共に学び、考える機会を設け、交流を深めるとともに、阪神・淡路大震災や東日本大震災の追悼行事へ参加した。

1　日時

令和２年１月16日(木)～17日(金)　２日間

2　内容

(1) 被招待者　宮城県名取市閖上地区の被災者、尚絅学院大学学生、名取市サポートセンター「どっと．なとり」、名取市立閖上小中学校生徒等　計19名

(2) 神戸・淡路の復興状況の視察（１月16日）

【場　　所】　北淡震災記念公園　野島断層保存館(淡路市小倉177)
兵庫県・神戸市新長田合同庁舎(神戸市長田区二葉町5-1-32)

【主な内容】　野島断層保存館での震災語り部の傾聴、復興した長田の街の見学など、震災体験の共有を行い、今後の復興について考えた。

(3)「阪神・淡路大震災1.17のつどい」及び「ひょうご安全の日1.17のつどい－阪神・淡路大震災25年追悼式典」への参加（１月17日）

【場　　所】　神戸市東遊園地及びHAT神戸

【主な内容】　震災の犠牲者を悼み、震災を忘れない取組を長年続けている追悼行事や神戸・心絆による竹灯籠での東日本大震災の追悼行事への参加等を通じ、復興への思いを深め、まちづくりに対する想いを新たにした。

36 兵庫芸術文化センター管弦楽団 第120回定期演奏会

震災からの心と文化の復興のシンボルとして誕生した兵庫芸術文化センター管弦楽団が佐渡裕芸術監督指揮のもと、犠牲者の方々への追悼や震災の教訓を思い起こすためのメッセージを発信するため、第120回定期演奏会を震災記念事業として開催した。

1　日時・場所

令和２年１月17日(金)17:46～、18日(土)・19日(日)15:00～
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール(西宮市高松町2-22)

2　プログラム・内容

(1) プログラム

ベートーヴェンの知られざる名曲とフォーレの美しき鎮魂歌

◇ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.61　＊ピアノ協奏曲版

◇フォーレ：レクイエム op.48

(2) 出演

指揮・芸術監督／佐渡 裕
ピアノ／菊池 洋子
ソプラノ／幸田 浩子
バリトン／キュウ・ウォン・ハン
合唱／オープニング記念第９合唱団
合唱指揮／本山秀毅
管弦楽／兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)

(3) 内容

阪神・淡路大震災から25年となる2020年１月の定期演奏会では、佐渡裕芸術監督が信頼を寄せるソリストたちとともに、特別なプログラムを提供した。

まず、公演冒頭では、佐渡芸術監督のあいさつの後、犠牲者への哀悼の意を表するため、監督・楽団員をはじめ、会場全員による黙祷を捧げた。

公演の前半は、ベートーヴェン唯一のヴァイオリン協奏曲である「ヴァイオリン協奏曲 ニ長調」をピアノ協奏曲版でお届けした。上演機会の少ない名曲であり、ソリストは、PACでたびたびモーツァルトの名演を聴かせくれている、ピアニストの菊池洋子が務めた。

公演の後半は、音楽史上最も美しい鎮魂歌の一つと称される、フォーレの「レクイエム」。フォーレは若き日から宗教音楽に親しみ、パリのサン・シュルピス教会やマドレーヌ寺院のオルガニストを務めた。中期の最高傑作である「レクイエム」は、“死は喜びに満ちた解放である”というフォーレの考えが反映された作品だといわれる。

ソリストは、第108回定期演奏会で、ハイドンの「天地創造」でも気高くあたたかい歌声を聴かせてくれたソプラノの幸田浩子と、バリトンのキュウ・ウォン・ハンが務めた。

また、合唱は公募・オーディションにより編成された「オープニング記念第９合唱団*」が務めた。

＊オープニング記念第９合唱団は、兵庫県立芸術文化センター柿落し公演の「ベートーヴェン：第９演奏会」のために結成された合唱団で、以来、芸術文化センター主催公演に数多く出演し、高い評価を得ている。
この度の合唱団は、芸術文化センター管弦楽団第120回定期演奏会の公演にあたり、参加メンバーを公募、令和元年９月に開催されたオーディションを経て編成されたもの。

公演は３日とも完売。約6,000人の聴衆を得て、大盛況の中で公演を終えることができ、震災からの心と文化の復興のシンボルとして誕生した当センターと楽団の意義を大いに示すことができた。

全ての写真©飯島隆

37 阪神・淡路大震災25年「9131　−絵がつなぐ　あの日とそれから−」

被災者本人が描いた「震災当時の絵」９作品を、兵庫ゆかりのアーティスト・漫画家９組がそれぞれの絵からの9131日のストーリーを踏まえ新たに描き下ろした。当時の作品と合わせて震災から9131日目となる2020年１月17日から展示することにより、“あの日”から始まった、今につながる“それからの日々”、そして“今”を見つめ直すきっかけとする。

1　主　催

NHK神戸放送局、阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター、兵庫県立美術館、兵庫県

2　監　修

近藤誠司准教授（関西大学社会安全学部）

3　出展作品

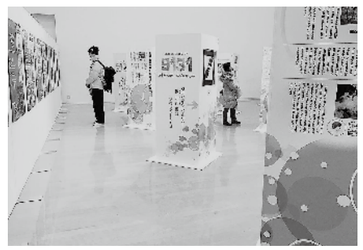
９組18作品
（①アーティスト・漫画家が今回新しく描いた絵
②被災者が描いた震災当時の絵）

三宮センター街会場

4　日時・場所

(1) 三宮センター街会場
日時：令和２年１月17日（金）～19日（日）
午前９時頃～午後８時頃
場所：三宮センター街１丁目
（うちフラワーロードから京町筋の間のエリア）

(2) 兵庫県立美術館会場
日時：令和２年１月22日（水）～31日（金）
午前10時～午後６時
※1月27日（月）休館
場所：兵庫県立美術館　ギャラリー棟１階　アトリエ１
（神戸市中央区脇浜海岸通１－１－１）



兵庫県立美術館会場

5　参加アーティスト（五十音順）

青山大介（鳥瞰図絵師）、有村綾（イラストレーター）、いとうのいぢ（イラストレーター）、海野つなみ（漫画家）、大川ぶくぶ／大口勝弘（漫画家／写真家）、角谷紀章（日本画家）、民井達也（切り絵作家／バーテンダー）、ひうらさとる（漫画家）、フクザワ（イラストレーター／ライブペイントクリエーター）

6　来場者

約9,000人

38 国際防災・人道支援フォーラム2020

神戸東部新都心を中心に立地する防災関係機関等で構成する国際防災・人道支援協議会（DRA）と県などによる実行委員会の主催で、「持続可能な開発目標（SDGs）と防災～レジリエント（強く、しなやか）な都市の実現を目指して～」をテーマに、日米の国際組織の代表や研究者などが取組を発表し、災害に強いしなやかな社会をどうやって実現するかについて話し合った。

1　日時・場所

・令和２年1月22日（水）13:30～16:30
・神戸ポートピアホテル　「偕楽の間」（参加者　約200人）

2　プログラム・内容

(1) 開会あいさつ

五百旗頭真　国際防災・人道支援協議会（DRA）会長
井戸敏三　兵庫県知事
中尾晃史　内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）

(2) 基調講演

講演１　松岡　由季　国連防災機関（UNDRR）駐日事務所代表
「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた仙台防災枠組の実施」
国連防災機関（UNDRR）は、災害に対するレジリエンスを構築するため、「仙台防災枠組」の実施を世界規模で推進している。同枠組の目標は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成度測定指標にも組み入れられているところ、仙台防災枠組の実施が持続可能な開発目標（SDGs）達成に繋がる。防災を通じて、SDGs達成に積極的に貢献して欲しい。

講演２　キャスリーン・ティアニー　コロラド大学ボルダー校名誉教授
「レジリエントな都市に向けた米国の取組：事例と評価」
レジリエンスは、ハザードを軽減し災害発生時の影響を封じ込め、社会の混乱を最小限に抑える能力だ。同能力の支援プログラムのひとつが、ロックフェラー財団によるもの。しかし、既に終了し、受援都市によって明暗が分かれている。米国住宅都市開発省（HUD）による政府レベルの資金援助、オクラホマ州タルサ市の水害対策プロジェクトなど地方政府レベルのものも実施されている。この成功の鍵は、地域の推進役だ。

(3) パネルディスカッション

「SDGsとレジリエント・シティ～都市は本当に強くなるのか？」
【ファシリテーター】　河田　惠昭　人と防災未来センター長
【パネリスト】　※ティアニー名誉教授に加え

① 茅野　龍馬　世界保健機関（WHO）健康開発総合研究センター医官
世界的な災害脆弱性と格差の増大、高齢化の中、災害弱者への対応が喫緊の課題だ。防災の目的に、人命、暮らしに加え、健康保持が認識され始めた。WHOでは世界の専門家のネットワーク化を通じ、現状・課題・対策を支える科学的根拠を積み上げている。日本では、DMATがレジリエンスな社会を支える制度だ。

② 前田　利蔵　(公財)地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センター副所長
ASEAN加盟の東南アジア10か国で、防災と気候変動対策の実施状況調査を実施している。既存のリスク評価が通用せず、気候変動の影響を考慮した評価の実施となっている。ハード対策は限界を迎えており、リスクを開示して、災害教育プログラムに落とし込み、非常時の対策もきっちりできるように訓練する必要がある。

③ 藤田　裕之　元京都市副市長、レジリエント・シティ京都市統括監
ロックフェラー財団の「100のレジリエント・シティ」に京都市が選ばれた。市は、レジリエンスとSDGsの達成を都市づくりの柱としている。過去の戦乱、大火、震災などからの復興など京都の歴史がレジリエンスそのものだ。背景には、緊密な地域コミュニティがある。この市民のつながりが災害に強い街につながる。

④ 西野　恭子　(独)国際協力機構関西センター所長
JICAは、人間の安全保障と質の高い成長実現をそのミッションに掲げている。その実現のためには、貧困を助長する災害への対応が不可欠だ。防災の面で、JICAは、仙台防災枠組に盛り込まれた４つの優先行動に沿って展開している。防災は、SDGs達成に不可欠な要素だ。多くの人にSDGsや世界の課題を知ってもらい、できることから取り組んで欲しい。

(4) 総括・閉会

河田　惠昭　国際防災･人道支援協議会(DRA)会長代行、人と防災未来センター長
SDGs実現は理想である。レジリエンスも同じ。が、理想と現実を結びつける努力無しには社会は豊かにならない。阪神・淡路大震災を経験した私達が、このことを国内外に発信していかなければいけない。

ティアニー名誉教授が米国の事例を紹介

SDGs とレジリエンス
その理想を叶える努力こそが最も重要

39 2020世界災害語り継ぎフォーラム

21の国・地域から、各地で実際に災害体験の語り継ぎに取り組む人々や研究者、NGO・NPO等が阪神・淡路大震災25年となる神戸に集い、交流・連携を深めるとともに、各地の事例を学びあい、語り継ぎの意義を再確認し、その重要性を広く世界に訴えた。（全体テーマ「災害の記憶をつなぐ」、サブテーマ「語り継ぎのパワー」「語り継ぎの条件」「語り継ぎの方法」「ミュージアムの役割」）

【公開シンポジウム】

1　日時・場所

・令和２年１月24日（金）
　第１部・第２部13:00～17:00　第３部18:30～20:30
・県公館（参加者　第１部・第２部約300人、第３部約500人）

2　プログラム・内容

(1) 開会挨拶
　小林郁雄　2020世界災害語り継ぎフォーラム実行委員長
　井戸敏三　兵庫県知事（2020世界災害語り継ぎフォーラム支援委員長）

(2) 第１部　災害からの文化を語り継ぐ

①基調講演　俳優　堀内　正美　氏
②対　　談　俳優　堀内　正美　氏、女優　竹下　景子　氏
③音楽と絵画を通じた語り継ぎ
　・Bloom Worksによるパフォーマンス
　・東日本大震災の記憶を巨大絵画で伝える加川広重氏と阪神・淡路大震災直後から文化の復興に尽力した島田誠氏との対談

[主な内容]
・365日、毎日災害のことを考えるのは難しいが、阪神・淡路大震災の1.17など年に１日だけでも「記憶のスイッチ」を入れる日ができたら良いのではないか。（堀内氏）
・東日本大震災を題材とした巨大絵画はいろいろな人を集める力があり、今後も様々な所で展覧会を開いて視覚的な語り継ぎを続けていきたい。（加川氏）

(3) 第２部　パネル討論～未来に向けて～

①座　長：河田　惠昭　人と防災未来センター長
②パネリスト：イブラヒム・コモオ　世界ジオパークネットワーク副会長
　シティ・マグフィラ　インドネシア・アチェ晃月学校協会
　坂口　奈央　東北大学大学院文学研究科
　西野　恭子　独立行政法人国際協力機構関西センター(JICA関西)所長
　深澤　良信　世界災害語り継ぎネットワーク（テルネット）事務局長

[主な内容]
・ジオパークには語り継ぐべき物語が隠されている。最も興味深い物語は災害に関するもので、ジオツアーとして伝える。コミュニティが観光資源として活用する。（コモオ）
・2004年の津波によりセミル島で亡くなったのは６人のみ。1907年の津波経験をスモン（津波）の歌で語り継ぎできたから。今後も子どもたちに歌で伝える必要がある。（マグフィラ）
・大槌町震災記録誌「生きる証」を作るとき、大槌高校生や被災地から少し離れた大学生に被災者のインタビューを手伝ってもらった。それが語り継ぐという伝承になった。（坂口）
・資料や映像で災害を知ることは出来るが、生の声を聞くことに意義があるという声が多い。日本では伝承施設は多いが、途上国ではまだまだ少ない。（西野）
・心に響く語り継ぎ、感動を呼ぶ語り継ぎが心に刺さって、記憶に残り、伝わっていく。普段ゴミとなるペットボトルですら媒体になる。アート、絵画、音楽も。（深澤）

(4) 第３部　竹下　景子　詩の朗読と音楽の夕べ
　竹下景子氏が、阪神・淡路大震災後に被災者等が綴った詩などを音楽に合わせて朗読

【分科会】

1　日時・場所

・令和２年１月25日（土）9:45～18:00
・こうべまちづくり会館（参加者　約300人）

2　内容（統括座長　永松　伸　関西大学社会安全学部教授）

・分科会A　語り継ぎとミュージアムの役割
・分科会B　語り継ぎとツーリズム
・分科会C　語り継ぎとローカルコミュニティ
・分科会D　ジオパークと語り継ぎ
・分科会E　災害遺構と記憶の継承
・分科会F　語り継ぎと交流

【ポスターセッション・全体会議】

1　日時・場所

・令和２年１月26日（日）9:00～13:30
・人と防災未来センター（参加者　約150人）

2　プログラム・内容

(1) 基調トーク（林　春男　防災科学技術研究所理事長、小池　俊雄　国立開発研究法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)長）
(2) ポスターセッション（座長：澤田　雅浩　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授）
(3) 全体会議
(4) 総括（五百旗頭　真　ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）

[主な内容]
・ミュージアムを土台に、心にふれるアートも動員してメッセージ。その両義性の中で語り継ぎが生かされている。
・風化は宿命だが、未来の対応を考えると放置できない。動機付けを持って語り継ぎを大事にする必要がある。

40 国際復興フォーラム2020

「レジリエント（強靭）なインフラでBuild Back Better（より良い復興）を目指す」をテーマに、災害が発生する前の段階で、事前に、レジリエント（強靭）なインフラへの投資機会をいかに活用・確保するかと、災害に耐えうるレジリエント（強靭）なインフラの構築を目的とした復興の取組について議論した。

1　日時・場所

・令和２年１月28日（火）10:00～16:30
・ホテルオークラ神戸（参加者　24カ国172人）

2　プログラム・内容

(1) 開会あいさつ
ジャレッド・メルカダンテ　IRP運営委員会 議長
（世界銀行 防災専門官）

(2) 主催者あいさつ
金澤　和夫　兵庫県 副知事
村手　　聡　内閣府 大臣官房審議官（防災担当）

(3) 特別講演
①「生活の復興とインフラの復興～阪神・淡路大震災の教訓～」
【講師】室﨑　益輝　兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長
【主な内容】
・阪神・淡路大震災ではより強靭な社会を構築していく「創造的復興」の考え方が新たに取り入れられ、それが国連の仙台防災枠組の中で「Build Back Better」として位置付けられた。
・レジリエントなインフラを考える時は、ハードなインフラだけではなく、ソフトなインフラやヒューマンなインフラなど、インフラを総合的に考えることが大切である。

②「災害にレジリエントなインフラを造る機会と課題」
【講師】カマル・キショー　インド政府国家防災委員会 理事
【主な内容】
・インフラをレジリエントにするためには、国・地域ごとの計画手法を採用するとともに、相互接続についての検討及びエコロジカルなインフラの検討が必要である。
・国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」のうち、少なくとも５項目が直接インフラ開発について述べているため、レジリエントなインフラを構築できなければ、SDGsを達成できない。

(4) パネルディスカッション１「レジリエント（強靭）なインフラを通して、より良い復興のために事前に計画を立てる」

【モデレーター】ジャレッド・メルカダンテ
世界銀行防災専門官（IRP運営委員会議長）
【パネリスト】
・カミール・クレン
アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁(FEMA)レジリエントなインフラとコミュニティ構築課長
・高石　将也　内閣官房国土強靱化推進室 参事官
・ブレンダン・ムーン　オーストラリア クイーンズランド州クイーンズランド再建局 CEO
・多田　欣也　兵庫県県土整備部県土企画局 技術企画課長
【主な内容】
・レジリエントなインフラとコミュニティ構築（BRICS）プログラムでは、FEMAが事前防災の観点から、減災・強靭化プロジェクトに資金提供するプログラムを展開している。（クレン）
・東日本大震災後ソフトを含む国土強靭化が推進されるようになり、甚大な災害を繰り返さないためには災害発生前に最悪の事態を想定し、平時から備えることが重要である。（高石）
・兵庫県では南海トラフ地震に備え、10カ年（2013～2023年度）の津波防災インフラ整備計画を策定し、防潮堤の整備等の津波対策を計画的に推進している。（多田）
・ニーズに合ったインフラを構築するツールは既にあるので、政策、資金調達、意思決定の面を整合させ、「より良い復興」への体系的なアプローチの確保が課題である。（ムーン）

(5) パネルディスカッション２「レジリエント（強靭）なインフラの復旧とより良い復興」

【モデレーター】クリシュナ・バッサ　国連開発計画（UNDP）復興アドバイザー
【パネリスト】
・ナージャ・アドリアーン
モザンビーク復興庁 シニア・コーディネーター
・越智　健吾　復興庁 参事官（インフラ構築班）
・アブドルマリク・サダト・イドリス　インドネシア国家開発企画庁 水資源インフラ課長
・ダウット・シャヒン　トルコ首相府災害緊急事態対策庁（AFAD）復興局 グループリーダー
・河瀬　伸幸　東洋建設　常務執行役員大阪本店長
【コメンテーター】カマル・キショー　インド政府国家防災委員会 理事
【主な内容】
・サイクロンイダイとケネスの復興に係る総コストは、32億ドルになるが、そのうち14億ドルは調達できたが、まだ18億ドル不足している。（アドリアーン）
・東日本大震災からの復興事業を進めてきて９年になり、ハード面では安全になってきているが、ソフトも含めたまちの強靭化が重要な課題となっている。（越智）
・中央スラウェシ地震からの復興過程では、復興プログラムの実施に際し、既存のメカニズムを利用する選択をすることで様々な機関を連携させ、責任を割り当てた。（サダト・イドリス）
・デュズジェ県の水害の教訓をもとに、川底の整備、道路のルート変更、陸橋の補強や新設、新技術を用いての陸橋の再建を行った。（シャヒン）
・多様な構造による耐震性強化が阪神・淡路大震災からの神戸港本格復旧の方針であり、優先順位が明らかになったことで、与えられた施工条件で期限までに完成できた。（河瀬）

(6) 総括・閉会あいさつ
石垣　和子　IRP運営委員会 共同議長（内閣府（普及啓発・連携担当）企画官）

41 令和元年度 防災とボランティアのつどい

阪神・淡路大震災から25年を迎える兵庫県において、「ボランティア元年」と言われた阪神・淡路大震災をはじめ、これまで災害ボランティア活動に関わった多くの人々が一堂に会し、これまでの災害ボランティア活動の歩みを様々な視点から振り返るとともに、これからの展望を考える機会とした。

1　日時・場所

令和２年２月２日(日)13:30～16:30
兵庫県公館大会議室　(参加者　約200人)

2　プログラム・内容

(1) 開会

開会挨拶：今井　絵理子　内閣府大臣政務官
井戸　敏三　兵庫県知事

(2) 第１部　基調対談「阪神・淡路大震災と『防災とボランティア』」

【話し手】室﨑　益輝氏(兵庫県立大学減災復興政策研究科長)
渋谷　篤男氏(中央共同募金会常務理事)
【聞き手】松本　浩司氏(日本放送協会　NHK解説委員)
【内　容】「ボランティア元年」と呼ばれるきっかけとなった、阪神・淡路大震災の教訓等について語った。

(3) 第２部　リレートーク「阪神・淡路大震災から生まれた多様な人材」

【進　行】菅　磨志保氏(関西大学 社会安全学部 准教授)
【話題提供】野崎　隆一 氏(神戸まちづくり研究所理事長)
高橋　守雄 氏(ひょうごボランタリープラザ所長)
長澤 恵美子氏(一般社団法人 日本経済団体連合会　SDGs本部　統括主幹)
東末　真紀 氏(神戸大学学生ボランティア支援室ボランティアコーディネーター)
【内　容】阪神・淡路大震災の復興に携わった方々をお招きし、活動を通じて得た想いや今後の課題等を話し合った。

(4) 第３部　パネルディスカッション「災害ボランティア活動の歩みと、いま、これから」

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】栗田　暢之 氏(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)代表理事)
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】吉椿　雅道 氏(CODE海外災害援助市民センター　事務局長)
鹿野　順一 氏(アットマークリアスNPOセンター代表理事)
樋口　務　氏(くまもと災害ボランティア団体ネットワーク代表理事)
詩叶　純子 氏(岡山NPOセンター・まび復興支援センター)
前原　土武 氏(災害NGO結 代表)
【内　容】東日本大震災、熊本地震、平成30年７月豪雨、海外被災地などで災害ボランティア活動に取り組んだ方々をコーディネーターやパネリストに迎え、被災者支援に欠かせない存在となった災害ボランティア活動のあゆみを振り返った。

(5) 閉会

42 阪神・淡路大震災を伝える 語り部フォーラム2020

震災から25年。被災地でも震災経験の無い方が増え、震災の風化が懸念される。企業活動や語り継ぎ活動の現場で活躍されている語り部の方々とともに、改めてこれまでの歩みを振り返り、教訓の活かし方や伝えることの重要性、震災を風化させないためフォーラムを開催した。

1　日時・場所

令和２年２月３日(月)13:00～17:00
兵庫県公館１階大会議室(参加者　約200人)

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶

金澤和夫　兵庫県副知事

(2) 基調講演「震災の教訓は災害文化を創る」

【講　師】河田惠昭　人と防災未来センター長
【主な内容】
・大雨特別警報が出ても避難しないのは、災害文化がないから。装置としての文明と機能としての文化を融合させなければならないが災害文化が衰退している。
・防災や危機管理に正解はないが、正解を求め続ける努力が重要である。

(3) パネルディスカッション第１部「企業の現場から」

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】永松伸吾　関西大学 社会安全学部教授
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】河野忠友　カワノ株式会社 代表取締役社長
吉川公二　株式会社フェリシモ 社長室室長
保井剛太郎　三ツ星ベルト株式会社 総務部部長兼神戸事業所長
【主な内容】
・災害時はトップの決断力とスピード感が重要。
・東日本大震災も東北被災地の支援活動を続け、お客様とともに明るい未来をつくっていきたい。
・日頃から地域住民と顔が見える関係づくりが大切と考え、地域の防災イベントに取り組んでいる。
・語り継ぎは、時代とともに変化するので、新たな教訓を踏まえて、日々進化していくことが求められている。

(4) パネルディスカッション第２部「語り継ぎの現場から」

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】小林郁雄　人と防災未来センター 上級研究員

【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】米山正幸　北淡震災記念公園 総支配人

野村　勝　人と防災未来センター 語り部

岩崎昭子　宝来館 女将（岩手県釜石市旅館）

﨑山光一　稲むらの火の館 館長（和歌山県広川町）

【主な内容】

・相手の目的意識に合わせ、自分の経験だけでなく、聞き取り調査した内容もまとめて伝えている。

・若い世代に震災の経験を伝承していくことが大切と考え日々活動している。

・東日本大震災を経験していない子どもたちも、ふるさとの未来を考える取り組みを進めており、その活動を支援することで、災害文化を創っていきたい。

・2020年は、稲村の火で村人を助けた濱口梧陵の生誕200年を迎え、新たなスタートの年として啓発に取り組んでいきたい。

・語り部には、災害文化を創る力があるので、今後の活動の展開に期待する。

第１部「企業の現場から」

第２部「語り継ぎの現場から」

43 21世紀文明シンポジウム　「阪神・淡路大震災25年～創造的復興を総括し未来へ提言する」

阪神・淡路大震災25年を機に、創造的復興はどこまで成し遂げられたのか、その経験や教訓はその後の災害の復旧・復興にどのように活かされたのか、南海トラフ地震など次なる災害に対して、私たちはいかに備えるべきかといったことについて考えるシンポジウムを開催した。

1　日時・場所

令和２年２月４日（火）13:00～17:00
神戸新聞松方ホール（参加者　410人）

2　プログラム・内容

(1) 主催者等挨拶

西村　陽一　朝日新聞社常務取締役（東京本社代表／コンテンツ統括／デジタル政策統括）

高梨　柳太郎　神戸新聞社代表取締役社長

来賓挨拶

井戸　敏三　兵庫県知事

(2) 基調講演Ⅰ「阪神・淡路大震災からの教訓・・行政の視点から」

【講　師】齋藤　富雄　神戸山手大学学長・元兵庫県副知事

【主な内容】

・震災からの25年を振り返り、防災行政の推進に不可欠となる①人的資源、②制度的資源、③組織的資源、④財政的資源、⑤情報的資源、⑥時間的資源の観点から「大震災12の教訓」を引き出した。「常時防災時代」を迎え、それらをどのように生かしていくかということが問われており、南海トラフ地震などの大災害を見据えつつ、日頃の災害対応にもしっかりと取り組む必要がある。

(3) 基調講演Ⅱ「阪神・淡路大震災からの教訓・・生活復興の視点から」

【講　師】室﨑　益輝　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授

【主な内容】

・復興過程で、「中間支援組織」、「まちづくり協議会」、「復興基金」、「復興支援員」、「コミュニティビジネス」、「住宅再建支援制度」などが成果をあげる一方、低成長・人口減少といった社会の質的変化への対応が必ずしも十分とはいえず、包括的な復興のシステム構築などの課題もある。こうした点をしっかり議論し今後に生かす必要がある。

(4) パネルディスカッション　「阪神・淡路大震災からの復興と未来への提言～次なる大規模災害からの創造的復興を見据えて」

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】御厨　貴　ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究戦略センター長・東京大学名誉教授

【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】鳥居　聡　神戸すまいまちづくり公社理事長・元神戸市副市長

中村　順子　認定特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長

津久井　進　弁護士・日本弁護士連合会災害復興支援委員会委員長

畑野　士朗　神戸新聞社報道部デスク

【主な内容】

・火災が同時多発的に発生し、面的に被害が拡大した。このため、密集市街地再生方針を作成し、密集市街地の解消を図るとともに、建物の不燃化や耐震化の促進などを進めている。

・140万人ものボランティアが被災地に駆けつけ、1998年のNPO法の施行に大きな影響を与えた。一方で、「NPOの経済的基盤が脆弱」、「行政の政策決定の場面へ参加する機会が少ない」といった課題がある。

・被災者をはじめ多くの人々の声が結集して、被災者生活再建支援法ができたが、課題も残されている。被災者の抱える問題は千差万別であり、「災害ケースマネジメント」といったいわば介護保険の災害版のようなきめ細かな取組みを提案している。

・「地に足を着け、被災者と同じ視線に立たなければ、被害を肌で理解することはできない」「美しい街並みの裏側には、その地域を離れざるを得なかった被災者の苦悩がある」、こうした言葉を忘れず未来につないでいきたい。

(5) 総括

五百旗頭　真　ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長・兵庫県立大学理事長
今村　文彦　東北大学災害科学国際研究所長・教授
角谷　陽子　朝日新聞大阪本社社会部次長・大阪版編集長

【主な内容】

・阪神・淡路大震災では家が倒壊して多くの人が亡くなったが、東日本大震災では津波、新潟県中越地震では山津波が起きたように、災害による被害も様々である。様々な災害の教訓を伝えたいが、逆にメッセージ性が薄まってしまう危険性があり、どのように取捨選択し伝承していくかということを考える必要がある。

・防災に取り組む上で、知識や経験は大切であるが、災害自体が変化しており、各自が判断力を養わないといけない。ISO（国際標準化機構）のように防災（BOSAI）の国際標準化も考えてはどうか。

・次なる大規模災害に備えて、復興基本法の制定や防災庁（省）の具体化はもとより、全ての地区が自主防災組織を整備するなど、いざというときに人々が共助で救出・救助に取り組むことができる、こころ豊かなコミュニティづくりも大切である。

44 令和元年度 お米・ごはん推進フォーラム

阪神・淡路大震災を機に提唱された「おいしいごはんを食べよう県民運動」の一環として、「お米・ごはん」を中心とした健康的な「日本型食生活」を推進し、食や「農」の大切さを広く県民にアピールするため、講演会を開催するとともに、お弁当・おむすびコンテストの最優秀賞受賞者に対する表彰式を行った。

1　日時・場所

令和２年２月８日(土)13:30～15:30
兵庫県公館　(参加者　約200人)

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶

金澤和夫　兵庫県副知事

(2) 令和元年度(第22回)お弁当・おむすびコンテスト表彰式

・令和元年度(第22回)お弁当・おむすびコンテスト最優秀賞(兵庫県知事賞)受賞者を対象に表彰状を授与

・最優秀賞受賞者へ自身の作品、阪神・淡路大震災の思いについてインタビュー

【阿曽真奈穂さん(お弁当コンテスト最優秀賞受賞者)へのインタビュー】

－「宍粟の恵みにありがとう弁当」を作るにあたってのポイントを教えて下さい。－

鹿肉や紫黒米など、地元の宍粟市でとれた食材をたくさん使ったことです。栄養バランスにも気をつけ、おいしくて体に良いお弁当を作りました。

－学校の先生から阪神・淡路大震災のお話を聞いたとのことですが、それを聞いてどう思われましたか。－

先生からは震災時の避難所の様子などを聞きました。物資が届けられた時、一つのおむすびを家族三人で分けて食べ、そのとき食べたおむすびが一番おいしかったという話が心に残っています。今、私が生活している中で、ごはんをおなかいっぱい食べられることに感謝したいと思いました。

【木村沙耶さん(おむすびコンテスト最優秀賞受賞者)へのインタビュー】

－どうして「ま・ご・わ・や・さ・し・い笑顔の花おむすび」という作品名にしたのですか。－

「ま・ご・わ・や・さ・し・い」は栄養バランスの良い和食の合い言葉です。家族の健康を願い、食べてくれる家族が明るく、笑顔になってほしいという思いを込めて、この名前にしました。

－阪神・淡路大震災で被災されたお母さま、おばあさまのお話を聞かれたそうですが、どのようなお話で、聞かれてどのように思われましたか。－

阪神・淡路大震災が発生した時は多くの建物が倒れ、余震に怯えながら夜を過ごしていたと聞き、地震はとても恐ろしいものだと思いました。また、ガスや水の復旧に時間がかかり、自衛隊の方から水や救援物資をいただいたなど、いろんな人に助けられたことを聞きました。

私は今、不自由なく生活が送れていること、いつでも温かいごはんが食べられることに感謝したいと思います。

(3) 講演会「勝ちたきゃ米食え！～東大野球部の戦略～」

【講　師】浜田一志　氏　(東京大学野球部前監督)

【主な内容】

・東大野球部が試合で勝つためのキーワードは米。
・エネルギーとして米が必要なため、東大野球部員は1日で５合から６合食べる。
・スポーツ選手にとってはタンパク質やビタミンなどを多く摂り、栄養が偏らない食事の管理が最も重要。

1月17日は「おむすびの日」

1995年1月17日、阪神・淡路大震災発生。
ライフラインが止まり、食べ物もなく、不安のどん底にいた被災者は、ボランティアの人たちが作ってくれたおむすびや炊き出しに助けられました。この震災での経験をきっかけとして、お米の大切さを再認識するとともに、改めて食と農について県民一人ひとりが考えることの重要性を伝えるため、兵庫県の提唱により「おいしいごはんを食べよう県民運動」が始まりました。いつまでも食料、とりわけお米の重要性を忘れないために、おいしいごはんを食べよう県民運動推進協議会は、震災発生日の１月17日を「おむすびの日」として(一社)日本記念日協会に登録、認定されました。

45 マイ避難カードの作成による住民の避難行動の支援 いのちを守る避難行動を考えるシンポジウム

近年、風水害が頻発化、激甚化するなか、逃げ遅れによる犠牲者を出さないよう、避難の必要性について理解を深め、いのちを守るための避難行動のあり方について考えるシンポジウムを開催した。

1　日時・場所

令和２年２月20日(木)13:30～16:30
兵庫県看護協会会館２階ハーモニーホール(参加者約230名)

2　プログラム・内容

(1) 主催者挨拶

早金　孝(兵庫県防災監)

(2) 特別講演「気象現象の激甚化と避難の必要性について」

【講　師】南　利幸(株式会社南気象予報士事務所代表取締役)
【主な内容】・経験したことのない気象現象への備えとして様々な気象情報の見方、取得方法
・早めの避難の重要性

(3) 基調講演「人はなぜ逃げ遅れるのか～安全確保行動の心理」

【講　師】木村　玲欧(兵庫県立大学環境人間学部教授)
【主な内容】・日常的な防災取組の重要性
・事前行動計画の作成、訓練を通した避難行動に至るまでの過程の習慣化の必要性

(4) 市町取組報告(神戸市・太子町・新温泉町・南あわじ市)

【主な内容】・マイ避難カード作成支援モデル事業の取組報告
・ワークショップの実施やマイ避難カードを用いた避難訓練の実施を報告

(5) パネルディスカッション

【ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ】木村　玲欧(兵庫県立大学環境人間学部教授)
【ﾊﾟﾈﾘｽﾄ】南　利幸(株式会社南気象予報士事務所代表取締役)
久保　正彦(前 佐用町企画防災課長)
各市町職員(神戸市・太子町・新温泉町・南あわじ市)
【主な内容】・ふだんからの近所付き合いが大切で、災害時にも避難の声かけができる。
・避難行動をサポートできる人材育成が望まれる。
・我々が思っているよりも災害の記憶の風化は早い。防災教育を進めることにより、子どもだけでなく大人も一緒に我が事意識をもてるよう取組を進めている。

(6) アンケート結果

・シンポジウム参加者の87%が「大変満足」「満足」と回答し、高評価であった。
・マイ避難カードについては「既に作成している」と回答した人は12%であった。
・「作成してみたい」に「はい」と回答した人は76%で、当シンポジウムを通じて防災意識のさらなる向上を図ることができた。

46 自主防災組織体制強化推進事業

自主防災組織等の活性化を図るため、複数の自主防災組織で行う訓練を支援した。

1 対象事業

(1) 二つ以上の自主防災組織が連携して行う防災訓練
(2) 前年度に当事業により支援を受けた過去３年間訓練を実施していなかった自主防災組織が行う防災訓練

2 支援内容

(1) 補助対象経費

謝金、旅費、保険料、印刷製本費、資料購入費、通信運搬費、役務費、会場借上費、消耗品費、補助金、その他事業実施に必要と認められる経費

(2) 補助金額

①上記１(1)の事業を実施した場合　１件あたり40千円　（※　三つ以上の自主防災組織の連携訓練、災害時要援護者支援訓練を実施した場合は、20千円加算）
②上記１(2)の事業を実施した場合　１件あたり20千円

3 支援実績（９件　447千円）

(事例紹介)中山五月台中学校(宝塚市)エリアでの避難所開設訓練等

(1) 実施団体名　ツウィング弐番館自主防災会　　ジャルダン宝塚中山台弐番館自主防災組織
(2) 日時・場所　中山五月台中学校
(3) 取組内容　中山台コミュニティ地区防災計画に定めたエリアの避難検証を目的に、4つの指定避難所と1つの福祉避難所との連携確認の訓練を実施した。

訓練内容は、通信訓練、要支援者搬送訓練、炊出し訓練、災害図上訓練及び避難経路確認訓練、避難所設営訓練　他

47 高齢者・障害者自助力強化推進事業

災害多発時代を迎える中、高齢化の進展や在宅医療・介護の推進、入所施設からの地域移行等により、地域で暮らす高齢者・障害者が増えている。阪神・淡路大震災の経験や教訓もあり、地域における防災活動も進んできたが、災害時に最も重要なのは「自らの命は自らが守る」ための備えと心掛けである。平成30年７月豪雨災害では、岡山県倉敷市真備町で、自宅２階への垂直避難すらできずに多数の高齢者が死亡し、また、地域と接点がなく、避難所の小学校の場所すら分からなかったシングルマザーの知的障害者とその娘が犠牲となった。

このような悲劇を繰り返さないため、共助・公助による支えとともに、高齢者・障害者の自助力（防災意識等）を向上させ、災害時における早期避難の徹底等を促す。

兵庫県身体障害者福祉協会での研修会

1　事業内容

(1) 防災ピアリーダーの任命

①業務受託者（兵庫県老人クラブ連合会、兵庫県身体障害者福祉協会）内で、圏域単位等で防災対策を率先する「防災ピアリーダー※」を任命

②防災ピアリーダーに防災知識や災害時の対応スキルを習得してもらうため、防災研修会や防災施設見学会等を開催

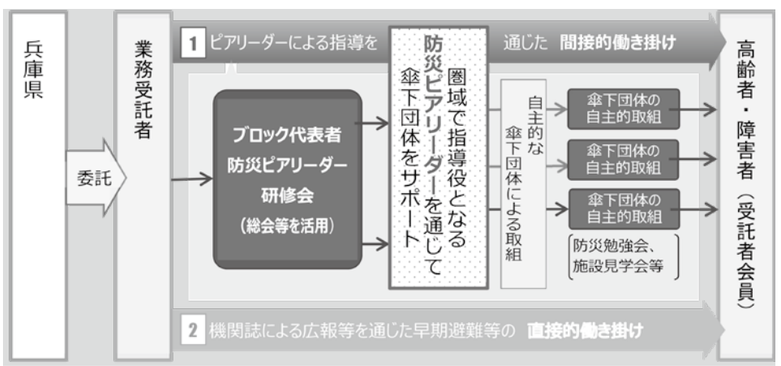
※同じ症状や悩みを持ち、同じような立場にある仲間（peer）が、体験の語り合い等を通じ、防災対策を考えていく上でリーダー的役割を果たす者

(2) 傘下団体による防災ワークショップ・防災施設見学会等の開催支援及び啓発

①業務受託者の傘下団体が、創意工夫で任意の防災関連事業（ワークショップ等）を実施するための事業費を支援（各３～５団体程度）

②業務受託者の広報誌を活用し、早期避難の重要性等を会員向けに啓発

【事業実施イメージ】



2　取組例

(1) 兵庫県老人クラブ連合会 但馬ブロック高齢者自助力強化推進研修

①日時・場所：令和２年２月14日（金）10:50～14:40、兵庫県広域防災センター他

②プログラム：(a)講義「要配慮者に対する避難支援について」（兵庫県防災企画課）
(b)防災体験学習（兵庫県広域防災センター）

(2) 兵庫県老人クラブ連合会広報誌「きずな」第206号

①発　行　月：令和元年10月

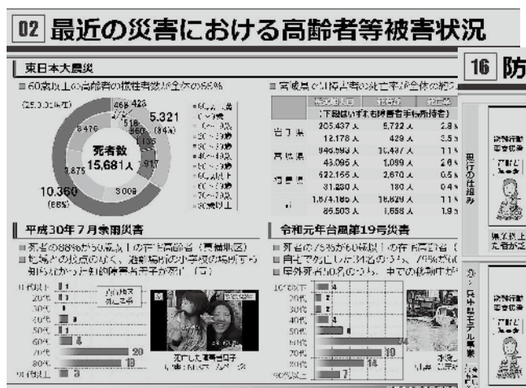
②紹 介 内 容：早期避難と近隣への声掛け

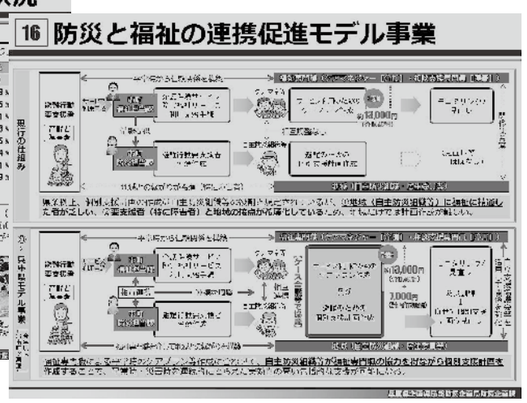
兵庫県老人クラブ連合会広報誌

(3) 兵庫県身体障害者福祉協会 阪神北ブロック身体障害者防災研修会［新型コロナウイルスの影響で中止］

①日時・場所：令和２年３月10日（火）13:30～15:30、三田市総合保健福祉センター

②プログラム：講義「避難行動要支援者に対する避難支援について」（兵庫県防災企画課）





講義資料

48 企業BCP策定支援事業

大規模災害発生時における企業経済活動の継続を図るとともに、帰宅困難者の発生による県民生活の混乱の防止を図るため、BCP（事業継続計画）策定セミナーの開催に取り組む県内商工会議所、県商工会連合会に対して支援を行うとともに、帰宅抑制に係る規定を含むBCPの策定に取り組む県内の事業所に対して支援を行った。

1 事業内容

(1) BCP策定セミナー開催補助

ア．補助対象事業者
県内の商工会議所、兵庫県商工会連合会

イ．補助対象事業
県内の事業所等を対象に行うBCP策定に係るセミナーの開催

ウ．補助金額
・商工会議所：1件あたり300千円以内（神戸・姫路の商工会議所は1,000千円以内）
・兵庫県商工会連合会：2,100千円以内

(2) BCP策定補助

ア．補助対象事業者
県内に所在する事業所

イ．補助対象事業
災害発生時における従業員等の待機や帰宅方針等の帰宅抑制に係る規定を含むBCPの策定に向けた取組を対象とし、事業実施年度内にBCPを策定することを要件

ウ．補助金額
1事業所あたり50千円以内

2 補助対象経費

講師謝金、講師旅費、印刷製本費（チラシ、ポスター代等）、図書購入費、委託料（BCP策定委託料等）、使用料　等

3 募集期間

令和元年6月3日（月）～令和2年2月28日（金）

4 支援実績

(1) BCP策定セミナー開催補助　25件　4,484千円
(2) BCP策定補助　67件　1,775千円

R 元 .7.17 県商工会連合会主催のセミナー風景

BCP 策定補助事業チラシ

5 支援実績一覧

●BCP策定セミナー開催補助

団体	開催件数	参加者数	補助金額
兵庫県商工会連合会	17 件	558 名	1,948 千円
神戸商工会議所	1 件	53 名	881 千円
西脇商工会議所	1 件	31 名	300 千円
三木商工会議所	1 件	11 名	155 千円
姫路商工会議所	3 件	108 名	892 千円
赤穂商工会議所	1 件	34 名	18 千円
龍野商工会議所	新型コロナウイルスの影響により中止 （開催準備に要した経費を補助金として支援）		19 千円
洲本商工会議所	1 件	39 名	271 千円
合計	**25 件**	**834 名**	**4,484 千円**

●BCP策定補助

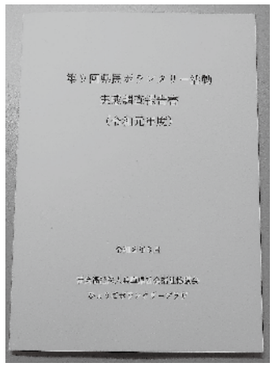
事業所所在地	策定件数	補助金額
神戸市	29 件	567 千円
姫路市	6 件	221 千円
尼崎市	5 件	87 千円
明石市	1 件	50 千円
西宮市	7 件	186 千円
芦屋市	1 件	9 千円
伊丹市	4 件	36 千円
宝塚市	5 件	209 千円
川西市	2 件	60 千円
小野市	1 件	50 千円
養父市	1 件	50 千円
朝来市	1 件	50 千円
たつの市	1 件	50 千円
福崎町	1 件	50 千円
太子町	1 件	50 千円
淡路市	1 件	50 千円
合計	**67 件**	**1,775 千円**

49 県民ボランタリー活動実態調査

県民ボランタリー活動を行っているグループ・団体の実態や課題、ニーズ等を把握するため、昭和59年から概ね5年ごとに実施（前回は平成26年度に実施）しており、今回は、阪神・淡路大震災から25年となることから、災害に対する取組、震災後のボランタリー活動全体の変化やその評価に対する調査も併せて行った。

1　調査趣旨

県民ボランタリー活動を行っている団体・グループの実態や課題、ニーズ等を把握するとともに、兵庫のボランタリー活動等の取組を評価し、今後の支援方策を検討するための基礎資料とすることにより、県民ボランタリー活動を推進する。



2　調査方法

県内NPO法人及び市区町社会福祉協議会への登録団体から無作為抽出した5,000団体にアンケート調査を実施した。

3　有効回答

2,584団体(有効回答率：51.7％)

4　調査委員会の設置

調査内容の検討や結果の分析を行うため、NPO関係者、学識経験者等で構成する調査委員会を設置し、４回開催した。

	氏　名	所　属・職　名
委員長	宮垣　元	慶應義塾大学総合政策学部　教授
委　員	中山　光子	(認定)宝塚NPOセンター　理事長
委　員	大橋　恭子	生活協同組合コープこうべ　地域活動推進部　統括部長
委　員	唐津　史朗	(福)神戸市社会福祉協議会　地域支援部　広報交流課長

5　調査結果の概要

(1) 今回の調査結果

①兵庫県内におけるボランタリー活動の全体像

ア 「福祉の増進」だけでなく、「まちづくりの推進」や「社会教育の増進」など他の分野の割合が微増し、活動の分野が多様化している傾向がみられる。

イ 前回の調査で最も多かった「サービスを提供したり人材を派遣する」が減少し、一方で「親睦・交流などの場を提供する」が増えるなど活動方法の質的な変化がみられる。

ウ 活動の担い手は女性と高齢者層が多くを占め、高齢化が進んでいる。

エ ニーズが増え社会的役割が高まっているが、活動を支える部分が弱まっている。

②ボランタリー活動における連携・協働の構造

ア 連携の相手先は「地域を基盤とする団体（特に自治体、まちづくり協議会）」が最も多いが、それに次ぐ団体は任意団体とNPO法人で大きく異なり法人格別で構造が異なる。

イ 連携・協働を拡大している団体とそうでない団体の二極化の傾向がある。

③ボランタリー活動における災害救援・復興支援活動の展開

ア これまでの災害で約4分の1の団体が何らかの救援・復興支援活動の取組があり、今後の災害においても約半数の団体が対応可能性を示唆している。

イ 支援活動の実施・継続にあたっては、支援活動を行う団体の人や資金、情報や場所などの資源が不足している。

④ボランタリー活動における課題と方向性

ア 活動者数の不足、世代交代の遅れなど、「担い手の確保」が大きな課題である。

イ 今後の活動を「拡大、充実する」団体が減る一方で、「現状を維持する」等が増加しており、「展開より安定」を望む傾向がある。

(2)「ボランティア元年」からの25年の変化

①活動は広がっているが新しい担い手の確保が大きな課題である。

活動が多様化し、活動の範囲が地理的に広がってきているが、活動者数の規模が必ずしも拡大しておらず、担い手は高齢化している。また、参加の経路は口コミに頼る一方、行政や社協、他団体からの紹介が減っており、担い手の確保が困難になっている。

②社会的ニーズに対応した事業組織化の進展がみられる。

一年間の活動回数は、必ずしも一貫した傾向とはいえないものの、「11回以下」が減少する一方で、「12回以上」は増加傾向となっており、活動が活発になっている。また、収入の内訳では、調査を始めた平成21年から「事業収入」が一貫して増加しており、「明文化された規約・会則」の整備状況も一貫して増加傾向にあることなどから、社会のニーズに対して活動を行い、全体としては事業組織化が進行していると考えられる。

③ボランタリー活動実施団体から見たこの25年

ア 社会的認知や役割が高まってきたことを実感している。

「ボランタリー活動に対する一般的な認知、理解は高まった」、「ボランタリー活動が、社会の中で一定の役割を果たすようになった」については、全体の4分の3以上が「思う」としている。

イ 参加のための土壌について一定の評価をしている。

「ボランタリー活動に参加する人の層が広がり、多様性が高まった」、「ボランタリー活動が身近となり、気軽に参加できるようになった」については、それぞれ７割弱程度が「思う」としており、参加のための土壌についても、総じて一定の評価がされている。

ウ 支援の取組は進みつつあるものの途上段階にある。

「ボランタリー活動に対する社会制度や支援制度が充実した」、「ボランタリー活動に対する学校教育での取組が活発になった」、「ボランタリー活動に対する企業の社会貢献活動が活発になった」については、肯定的な評価が増加傾向を示しているものの半数程度となっており、支援の取組は途上にあると言える。

50 「ひょうごBOSAI天然水」の開発

神戸学院大学は、兵庫県との「地域創生に係る包括連携協定」（H29.9）に基づく防災・減災分野の活動及び震災25年記念事業として、㈱ブルボンの協力の下、ボトルラベルに防災関連情報を掲載した「ひょうごBOSAI天然水」を開発し、商品化した。

1　商品概要

(1) 商　品　名：「ひょうごBOSAI天然水」
(2) 種　　別：ナチュラルミネラルウォーター
(3) 内　容　量：500ml
(4) 発　売　日：令和元年10月29日（火）
※ふれあいの祭典（10/26、27三木総合防災公園）で学生がブース出展し先行販売
(5) 販売チャネル：量販店、ドラッグストア、小売店、売店など
(6) 価　　格：オープンプライス

2　特徴等

(1) ペットボトル飲料の顔であるボトルラベルのほぼ全面を使って次の防災関連情報を掲載
① 地震、津波、大雨、土砂災害ごとに、災害発生時の注意事項を関西弁やカラフルなデザインでアピール
② 災害時の一時避難行動を、ピクトグラムを用いて表示
③ ローリングストックの概要を掲載
④「ひょうご防災ネット」アプリ(兵庫県がR1.5月運用開始)の紹介
※ 神戸学院大学の学生がボトルラベルのデザインを考案
（兵庫県防災部局は掲載内容の確認等を協力）

(2) 次の防災イベント等で配布
①「広域防災センター実戦デモ」（令和元年10月27日）＊イベント景品として
② ひょうご防災フェスタ（令和元年11月30日）＊イベント景品として
③「1.17ひょうごメモリアルウォーク2020」（令和２年１月17日）＊㈱ブルボン協賛品として

商品の企画を行った神戸学院大学現代社会学部社会防災学科の学生

51 「ひょうご『学ぼう災』かるた」の作成・配布

阪神北県民局では、未来を担う子ども達が、防災に関する知識・経験・心構え（意識）を楽しく学び、身につけるための啓発教材「ひょうご『学ぼう災』かるた」を1,000部作成。
１月の「減災月間」に活用していただくため、11月に阪神地域７市１町の全小学校及び児童館、子育て支援施設、図書館、公民館等に配布した。
また、１月13日（月・祝）に主催した「『ひょうご安全の日』阪神北地域のつどい」参加者に配布するとともに、かるた体験コーナーを設け、子どもから大人まで、実際に、かるたの体験を通じて、楽しみながら防災の知識などを学んでいただいた。アンケートでも、「家で実際にしてみたい」「サークルで使って防災意識を高めたい」などの意見が寄せられた。

「『ひょうご安全の日』阪神北地域のつどい」での「ひょうご『学ぼう災』かるた」体験の様子

かるたの特徴

◎阪神教育事務所の協力を得て、小学生向けの表現に統一。
◎指導者が防災の取り組みをわかりやすく伝えるため、「読み札解説一覧表」付き。
◎読み札・絵札・一覧表は、阪神北県民局ホームページからダウンロード可能。

かるたの箱

figure_読み札解説一覧表
かるたの全体像。箱・解説一覧表・読み札・絵札

◎読み札・絵札の５つの色分けで「防災学習のねらい」「取り組みの必要な時」が一目でわかるようにした。
・水色枠＝防災「知識」を身につけよう
・桃色枠＝防災「行動」を身につけよう
・黄色枠＝防災「意識」を持とう
・緑色○＝「平常時」に必要な取り組み
・橙色○＝「災害発生時」に必要な取り組み

５つの色がついた読み札と絵札

◎兵庫県ならではの防災政策も紹介している。
(例)
・マイ避難カード(す)
・震災・学校支援チーム「ＥＡＲＴＨ」(せ)
・津波対応啓発ソング「走れタカダイ」(は)
・住宅再建共済制度「フェニックス共済」(ふ)
・１月17日「ひょうご安全の日」(わ)

52 大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト

「ふるさとひょうご寄附金」を活用し、大規模災害時に、被災者の生活の早期復旧、自立を支援するため、社会全体で支える仕組みとして「大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト」を平成31年4月に創設した。
令和元年東日本台風災害に初適用し、被災地でボランティア活動を行う団体・グループを対象に、交通費・宿泊費の一部を助成した。

1 制度概要

区　分	内　容
対象災害	被害の程度などを勘案し、県と協議のうえ決定
対象者 (5人以上の団体・グループ)	区　分 / 県内団体・グループ / 県外団体・グループ 被災地 県内 / 対象 / 対象 被災地 県外 / 対象 / 対象外
対象事業	復旧期の被災者支援活動（瓦礫撤去、泥かき、避難所支援等）
対象経費	旅費、宿泊費（公共交通機関運賃、燃料代、バス代、レンタカー代等）
助成額	1団体・グループ20万円上限

2 助成経過

(1) 10月28日　募集開始
長野県(本県のカウンターパート)を対象に募集開始
(2) 11月19日　対象地域拡大
被災地のニーズや活動するボランティア等の意見を踏まえ、助成制度の適用範囲を、長野県から全国(県外からボランティアを受入れている市町村)に拡大

3 助成実績

(1) 件数
53件
(地域内訳：長野県45件、宮城県3件、栃木県3件、福島県1件、神奈川県1件)
(2) 助成金額
7,074千円

53　令和元年度「食育絵手紙」コンクール

実施時期	①募集：R1.6月～9月、②表彰式：R1.10.19(土)	実施場所	①兵庫県内、②明石市(兵庫県立明石公園)
主　催　者	兵庫県		

内容
食育を実践するためのメッセージを絵と言葉で伝える「絵手紙」を募集し、今年度の募集テーマを「災害時の食に備え、今からできることを伝えるメッセージ」とする。応募作品から優秀賞等を決定し、入賞者を兵庫県民農林漁業祭において表彰。

54　自主防災組織パワーアップ事業

実施時期	①R1.7.6(土)～7.7(日)、②R1.7.13(土)～7.14(日)	実施場所	①加西市(北部公民館)、 ②小野市(小野市伝統産業会館)
主　催　者	兵庫県北播磨県民局		

内容
自主防災組織のリーダー等を対象に、ＨＵＧ(避難所運営ゲーム)の実施により、避難所運営時に発生が予見される出来事について、災害の種類・規模や各地域の実情に応じた事前の想定訓練を実施し、適切な手法を取得させることで、自主防災組織の強化及び地域防災力の向上を図る。

55　夏休みお天気フェア

実施時期	R1.8.2(金)	実施場所	神戸市(神戸地方気象台)
主　催　者	神戸地方気象台		

内容
小学生の親子を対象に、地震・津波、天気に関する実験・展示や、気象台の予報作業現場・観測露場の見学等を実施。これらを通じ、災害から自分の身を守るためにどのように行動すればよいかを考えることにつなげる。

56　六甲山の災害展

実施時期	R1.8.14(水)～8.25(日)	実施場所	神戸市(人と防災未来センター)
主　催　者	兵庫県、神戸市、国土交通省六甲砂防事務所		

内容
阪神・淡路大震災による山地災害の復旧状況が学べるパネル展示や、降雨体験装置、土石流実験装置等による災害体験を通じて、山地災害の知識や防災意識の向上を目的として開催。

57　福良地区防災フェスタ

実施時期	R1.9.8(日)	実施場所	南あわじ市(福良港津波防災ステーション等)
主　催　者	福良地区防災フェスタ実行委員会		

内容
福良地区が災害に強いまちづくりを目指していることをアピールし津波防災ステーションの機能などを啓発することを通じて、地元住民や観光客の防災意識向上を目指し、フォーラム、参加型イベント、防災学習、セレモニー、福良街歩き、非常食の試食等を実施。

58　神戸大学附属図書館令和元年度資料展「阪神・淡路大震災25年　あのときとこれから」

実施時期	R1.10.11(金)～R2.2.4(火)	実施場所	神戸市(神戸大学附属図書館社会科学系図書館)
主　催　者	神戸大学附属図書館		

内容
神戸大学附属図書館は、阪神・淡路大震災の被災地の中にある図書館の責務として、関連資料を収集した「震災文庫」を平成7年10月30日より公開している。本年度は震災から25年の節目を迎えるにあたり、「あのときとこれから」をテーマに、その所蔵資料を通じて、当時の被害状況や震災の経験と教訓を紹介。

59　第57回兵庫県高圧ガス大会

実施時期	R1.10.23(水)	実施場所	神戸市(兵庫県公館)
主　催　者	兵庫県、兵庫県高圧ガス連絡協議会		

内容
県民の安全で快適な生活の確保と高圧ガス業界の健全な発展を目的に、高圧ガスに関する保安意識の高揚と保安活動の推進を図る大会を開催。特に、大規模災害発生時の事業継続計画（ＢＣＰ）の策定を推進するセミナーを実施。

60　次世代バッテリーによる『震災に備える』フェスタ

実施時期	R1.11.2(土)～11.4(月・祝)	実施場所	淡路市(国営明石海峡公園)
主　催　者	UNDOKAI WORLD CUP 実行委員会 運動会事務局(株式会社パソナグループ)		

内容
トヨタ自動車グループ、KYMCO 社、オーエス等の民間企業による次世代型モビリティとバッテリーを活用した、大災害への備えや対策の充実につながる体験・展示ブースを展開。次世代バッテリーによる電源の確保や使用例を見て触って体験できる場を提供。

61　あなたの街の防災セミナー

実施時期	R1.11.5(火)～R2.2.27(木)	実施場所	西宮市(今津公民館ほか市内の３公民館)
主　催　者	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社		

内容
地震をはじめとする自然災害への備えを学ぶとともに、地震・交通災害が起こりやすいエリアの確認や、フェニックス共済と火災・地震保険の活用等についてのセミナーを実施。

62　六甲祭屋内企画　阪神・淡路大震災25年パネル写真展とトークセッション「あの日、何があったのか」

実施時期	R1.11.9(土)～11.10(日)	実施場所	神戸市(神戸大学六甲台第１キャンパス)
主　催　者	神戸大学メディア研		

内容
激震に見舞われた六甲の街、倒壊し焼けた下宿街、崩れ落ちた阪神高速。私たちの街が、大学が、あの日、どうなったのか。市民や学生に写真パネルの展示と、震災当時を知る大学卒業生の体験談を通して伝える。

63　令和元年度三田市総合防災訓練

実施時期	R1.11.16(土)	実施場所	三田市(三田市立三輪小学校)
主　催　者	三田市		

内容
三田市（市内伏在断層）を震源としたM6.9、震度6強の地震想定し、発災初動対応訓練、避難所運営訓練等を実施。

64　淡路島全島一斉総合防災訓練（洲本市地域防災訓練）

実施時期	R1.11.17(日)	実施場所	洲本市(洲本市立大野小学校)
主　催　者	洲本市		

内容
洲本市地域の防災力向上を目的に、災害対策本部設置・情報伝達訓練、初期消火訓練、炊出し訓練、要援護者搬送訓練、福祉避難所設置訓練、煙体験、起振車体験等を実施。

65　淡路島全島一斉総合防災訓練（南あわじ市総合防災訓練）

実施時期	R1.11.17(日)	実施場所	南あわじ市(南あわじ市立南淡中学校)
主　催　者	南あわじ市		

内容
南あわじ市地域の防災力向上を目的に、救出訓練、水消火器体験、救命講習、炊出し訓練、災害ボランティアセンター設置運営訓練、給水訓練、避難所開設運営訓練、防災講演等を実施。

66　淡路島全島一斉総合防災訓練（淡路市総合防災訓練）

実施時期	R1.11.17(日)	実施場所	淡路市(淡路市立津名中学校)
主　催　者	淡路市		

内容
淡路市地域の防災力向上を目的に、災害対策本部設置訓練、初期消火訓練、避難所設置運営訓練、炊出し訓練、応急救護法講習(心肺蘇生法、AED操作)、防災講話等を実施。

67　第九 in にしのみや～1.17は忘れない～

実施時期	R1.11.24(日)	実施場所	西宮市(西宮市民会館アミティホール)
主　催　者	第九 in にしのみや実行委員会		

内容
追悼の意と復興支援への感謝を込めた、市民を中心とした公募による合唱団と市民オーケストラによるコンサート。ベートーヴェン交響曲第９番を演奏。

68　阪神・淡路大震災25年事業　写真展「原点　記録を残す」

実施時期	R1.12.2(月)～R2.1.31(金)	実施場所	西宮市(西宮市役所本庁舎)
主　催　者	西宮市		

内容
市役所1階の展示コーナー「アーカイブ西宮」で、震災をテーマにした写真を展示。3月には、市ホームページでも、展示した写真等を公開。

69　地域防災力向上研修

実施時期	①R1.12.10(火)～12.11(水) ②R1.12.13(金)～12.14(土)	実施場所	①丹波篠山市(丹波篠山市西紀老人福祉センター) ②丹波市(柏原住民センターほか)
主　催　者	兵庫県丹波県民局		

内容
自治会役員等を対象に、自助・共助の意識の醸成とともに、地域に即した防災力の向上を図るため、DIG（地図を使った防災対策検討訓練）等により、地域の危険箇所の把握や課題を解決する力を養成。

70　こころ豊かな美しい東播磨をめざす実践推進大会

実施時期	R1.12.14(土)	実施場所	加古川市(東播磨生活創造センター「かこむ」)
主　催　者	こころ豊かな美しい東播磨推進会議		

内容
地域の県民運動の実践活動リーダーやボランタリー活動団体等が集い、その活動を顕彰するとともに、さらなる県民運動を展開するための講演会を実施。今年度は震災25年の節目であることから、ひょうごの「防災」を広く伝える内容で実施。（演題:「歌を通じた支援と防災～つながる心、つなぐ命～」、講師:シンガーソングライター・防災士　石田裕之氏）

71　阪神・淡路大震災25年パネル写真展「#知らなかった震災25年」

実施時期	①R1.12.16(月)～12.17(火)、R2.1.9(木) ②R2.1.12(日)～1.18(土)	実施場所	①神戸市(神戸大学鶴甲第１キャンパス) ②神戸市(神戸学生青年センター)
主　催　者	神戸大学メディア研		

内容
震災を知らない世代の学生や市民に、大学慰霊碑の場所を知ってもらい、１月17日の慰霊献花式に参列してもらうためのキャンペーンとしてのパネル写真展を開催。町の被災の様子や、神戸大遺族のインタビューを展示。

72　地震保険セミナーin神戸

実施時期	R1.12.16(月)	実施場所	神戸市(兵庫県民会館)
主　催　者	(一社)日本損害保険協会近畿支部		

内容
地震リスク啓発及び地震への経済的な備えである地震保険・フェニックス共済普及を目的としたセミナーを開催。兵庫県立大学大学院室﨑益輝教授より「阪神・淡路大震災から25年を迎えて」、神戸地方気象台より「兵庫県の地震・津波リスクと防災情報の活用について」の講演等を実施。

73　オープンセミナー「避難所運営や自治会活動に役立つ無線機の選び方・操作方法を習得しよう」

実施時期	R1.12.21(土)	実施場所	伊丹市(中央公民館)
主　催　者	伊丹防災士の会		

内容
無線機を扱う際に必要となる電波法の知識の習得や、実際に無線機を操作することを通じて、災害時の情報伝達を考えるセミナーを実施。

74　ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ第８回兵庫公演　名手たちの交響楽団　ニューイヤーコンサート

実施時期	R2.1.4(土)	実施場所	西宮市(兵庫県立芸術文化センター)
主　催　者	株式会社メイ・コーポレーション		

内容
日本を代表する演奏家達が集結したジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ兵庫公演は今回で８回目の開催。阪神・淡路大震災から25年を迎える節目の年にあたり、震災で犠牲となられた方々に哀悼の意を表したプログラムで実施。

75　震災25年・津高和一没後25年　震災写真と津高の小品展

実施時期	R2.1.11(土)～1.17(金)	実施場所	西宮市(ギャラリーわびすけ)
主　催　者	舩橋正樹		

内容
西宮に住んでいて震災で亡くなった詩人で現代美術家の津高和一を追悼する展覧会。地元のギャラリーとして、現代美術の草分け的存在の作家を忘れないために当ギャラリーのコレクションと当時の西宮や神戸三宮の写真(舩橋が撮影)とともに展示。

76　御影ぼうさいProject

実施時期	R2.1.12(日)	実施場所	神戸市(神戸市立御影小学校)
主　催　者	御影ぼうさいProject実行委員会		

内容
地域の防災・減災意識の拡充を図るため、学校や町の防災学習とはまた一味違う、マルシェ形式で各ブースを巡って学んで帰れるまち主体のイベントを実施。災害時を想定した無料ワークショップやトーク、物販、炊き出し、消防車展示、防災絵本の読み聞かせ等のブースが出展。

77　第14回震災を忘れないメモリアルコンサート

実施時期	R2.1.13(月・祝)	実施場所	伊丹市(いたみホール中ホール)
主　催　者	NPO法人ええうた工房		

内容
「ジョイント」形式で他の合唱団と協力して開催する演奏会。震災から25年、地震や台風、水害などの助け合いの気持ちを再確認するとともに、出演団体・出演者と共に防災やメモリアルの思いを来場者と共有し、気持ちを引き継いで行くことを目的とする。ひょうご防災特別推進員による講話も実施し、より強く防災について振り返る。

78　「ひょうご安全の日」阪神北地域のつどい（P55再掲）

実施時期	R2.1.13(月・祝)	実施場所	川西市(アステホール)
主　催　者	兵庫県阪神北県民局		

79　阪神・淡路大震災25年記念事業　シンポジウム「女性の視点から災害支援を考える」今後各地で予測される災害に向けて

実施時期	R2.1.13(月・祝)	実施場所	神戸市(こうべまちづくり会館)
主　催　者	認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ		

内容
震災から25年を経て「災害時における女性支援」に関して何が変わり、何が変わっていないのかを、災害支援に直接関わったNPOメンバーや災害とジェンダーに関する研究者を交えて検証し、今後の災害に備える。

80　「ひょうご安全の日」但馬地域のつどい災害パネル展（P60再掲）

実施時期	R2.1.14(火)～1.24(金)	実施場所	豊岡市(兵庫県豊岡総合庁舎)
主　催　者	兵庫県但馬県民局		

81　阪神・淡路大震災25年　写真展　～震災の記録と復興のあゆみ～

実施時期	R2.1.14(火)～3.31(火)	実施場所	伊丹市(伊丹市防災センター)
主　催　者	伊丹市		

内容
阪神・淡路大震災から25年の節目の年に、当時の被害写真やデータを展示し、復興までのあゆみを伝える。

82　1.17震災メモリアル行事「阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う私たちの使命～」兼ひょうごユース防災・減災ワークショップ

実施時期	R2.1.15(水)	実施場所	神戸市(兵庫県立舞子高等学校)
主　催　者	ひょうごユース防災・減災ワークショップ実行委員会		

内容
生徒、県内外の中高生等が参加し、犠牲者を追悼するとともに、阪神・淡路大震災や東日本大震災を体験した様々な分野の方から話を聞き、災害の理解を深める。全体会では追悼演奏や講演を実施、分科会ではライフラインや救助活動について学ぶ。また、舞子千人鍋、参加者の意見交換、避難所運営訓練を実施。

83　生活協同組合コープこうべ第３地区本部

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	神戸市内
主　催　者	生活協同組合コープこうべ第３地区本部		

内容
JR元町駅を出発し、神戸レンガプロジェクト・南京町・旧居留地を巡り東遊園地で献花を行い、防災貯水設備や災害時帰宅支援ステーション等、緊急避難受け入れ場所や帰宅時サポート協力店などの情報を聞きながら最終HAT神戸の記念式典に参加し、12時の黙とうを実施。

84　KOBE豚饅サミット®特別企画　神戸・宮城・熊本「絆」シンポジウム

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	神戸市(よみうり神戸ホール)
主　催　者	KOBE豚饅サミット実行委員会		

内容
2012年より宮城県(名取市・気仙沼市・仙台市)、そして2017年からは熊本県(熊本市、益城町)で豚饅の炊き出し支援事業を実施。今年は震災25年特別企画として神戸・宮城・熊本「絆」シンポジウムを実施。

85　「ひょうご安全の日」阪神南地域のつどい(P54再掲)

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	尼崎市(尼崎市立園田中学校)
主　催　者	兵庫県阪神南県民センター		

86　阪神・淡路大震災25年追悼行事

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	西脇市(兵庫県立西脇北高等学校)
主　催　者	兵庫県立西脇北高等学校		

内容
阪神・淡路大震災を経験した消防職員の講演、震災に関する映画鑑賞、災害ボランティアの「語り部」、合奏や合唱等を実施。

87　おむすびの日　普及啓発

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	兵庫県内
主　催　者	おいしいごはんを食べよう県民運動推進協議会、兵庫県米穀事業協同組合、兵庫県		

内容
おむすびの日(1月17日、記念日登録済み)を啓発する記事を新聞紙面に掲載し、県民に広く周知。

88　地域防災訓練及び「ひょうご安全の日」地域のつどい(P61再掲)

実施時期	R2.1.17(金)	実施場所	丹波篠山市(丹波篠山市立城南小学校)
主　催　者	兵庫県丹波県民局		

89　阪神・淡路大震災25年「備えよう」キャンペーン

実施時期	R2.1.17(金)～4.30(木)	実施場所	兵庫県内
主　催　者	兵庫県電設資材卸業協同組合、兵庫県電気工事工業組合		

内容
「感震ブレーカー」の啓蒙ポスター、チラシを作成し設置推進を実施。ポスターは主催両組合の会員各社店頭に掲示。

90　「ひょうご安全の日」西播磨地域のつどい(P59再掲)

実施時期	R2.1.18(土)	実施場所	上郡町(生涯学習支援センター)
主　催　者	兵庫県西播磨県民局、上郡町		

91　みんなでつくる持続可能な循環型社会へ～災害をこえていく～

実施時期	R2.1.18(土)	実施場所	淡路市(Seedbed)
主　催　者	株式会社タネノチカラ		

内容
大きな災害が起きたとき、多くの人は避難所へ避難をし、共同生活を行う。地域の繋がりが希薄化し、高齢化する日本社会で、人が集まり、共創をしていく意義を体感し、“自然を活かす”ことで豊かな社会を創っていくという体験・発信を実施。

92　令和元年度 中播磨地域防災講習会「“ひょうご安全の日”中播磨のつどい」(P58再掲)

実施時期	R2.1.18(土)	実施場所	神河町(中央公民館グリンデルホール)
主　催　者	兵庫県中播磨県民センター、神河町		

93　災害時における動物愛護及び救護関連研修会

実施時期	R2.1.19(日)	実施場所	尼崎市(兵庫県動物愛護センター)
主　催　者	兵庫県獣医師会		

内容
災害時における動物愛護及び救護関連研修会を実施。研修内容：①緊急災害時における動物愛護及び救護活動への対応～日本獣医師会の方針及びVMATの概要について～、②兵庫県動物愛護行政からの災害時における動物愛護及び救護について～災害時に備え飼主が準備しておくこと及び同行避難について～

94　神戸大学　震災復興支援・災害科学研究推進室　第８回シンポジウム

実施時期	R2.1.22(水)	実施場所	神戸市(神戸大学百年記念館六甲ホール)
主　催　者	国立大学法人神戸大学		

内容
「阪神・淡路大震災から25年～私たちは何を学び、どこへ向うのか～」をテーマに、阪神・淡路大震災25周年を機に、特に阪神・淡路大震災から我々が学んだこと、震災後の研究成果と、今後の安全・安心な社会のあり方を考える。

95　淡路地域 阪神・淡路大震災25年シンポジウム～次なる大災害への備えを考える集い～(P62再掲)

実施時期	R2.1.22(水)	実施場所	洲本市(洲本市文化体育館)
主　催　者	淡路消防保安協会、兵庫県淡路県民局		

96　2019年度　伊丹市総合防災訓練

実施時期	R2.1.26(日)	実施場所	伊丹市(伊丹スポーツセンター体育館等)
主　催　者	伊丹市		

内容
震災を経験した職員が減少している事から、震災の経験や教訓を継承し、災害が発生した際には迅速に初動対応が取れるよう、市内全域で、市の各対策部による実践的な訓練や市民参加型の訓練を実施。災害対策本部設置訓練や情報伝達訓練、避難所開設・運営訓練等を実施。

97　ジュニア・地域防災スクール

実施時期	集合型講座：①R2.1.26(日)、②R2.2.9(日) 出前講座：随時 ※延べ7回	実施場所	集合型講座：①明石市(防災センター)、 ②加古川市(防災センター) 出前講座：小中学校、自治会等
主　催　者	主催：兵庫県東播磨県民局、実施：NPO法人兵庫県防災士会		

内容
「災害に強い東播磨」を将来にわたって支える人材を育成するため、管内の小中学生等を対象として防災講話、避難所体験等のジュニア・地域防災スクールを実施。

98　イザ！美かえる大キャラバン！ 2020

実施時期	R2.2.2(日)	実施場所	神戸市(JICA関西及び人と防災未来センター)
主　催　者	JICA関西、国際防災研修センター		

内容
防災に取り組む、兵庫県を中心に活動する団体が一堂に会して、様々な防災教育・啓発プログラムを提供。子どもから大人まで、楽しく体験できるイベントを実施。(家庭備蓄啓発に取り組む「BOSAI キッチン」、謎解きミッション「防災博士の挑戦状」等)

99　西宮花火大会2020　～忘れない、いま私たちにできること～

実施時期	R2.2.9(日)	実施場所	西宮市(新西宮ヨットハーバー)
主　催　者	一般社団法人西宮青年会議所		

内容
花火大会を通じて自然災害の恐ろしさを再確認し、今後発生する可能性が高い南海トラフ地震その他自然災害に対して備える意識を持つ必要性を市民に伝える。

100　「ひょうご安全の日」北播磨地域のつどい(P57再掲)

実施時期	R2.2.9(日)	実施場所	西脇市(西脇市立西脇中学校)
主　催　者	兵庫県北播磨県民局		

101　神戸地域ビジョン委員会みんなでつながり支えあう会震災イベント「震災復興とヨガ」
【新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止】

実施時期	R2.3.16(月)	実施場所	神戸市(兵庫県立神戸生活創造センター)
主　催　者	神戸地域ビジョン委員会		

内容(予定)
震災を決して忘れてはならないという思いを込めて、長田に住み、被災し、追悼行事にも携わっている神戸地域ビジョン委員に長田のまちの復興について語ってもらう。また、震災から25年経ち、心の傷が未だに癒やされていない被災者が、心身のバランスを取り戻すためことができるよう、被災地である長田のまちでヨガを実施。

102　～阪神・淡路大震災25年～巨大災害国際シンポジウム
【新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催見送り】

実施時期	R2.3.16(月)	実施場所	東京都(東京国際交流館国際交流会議場)
主催者	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構		

内容(予定)
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構でとりまとめた東日本大震災復興の研究成果を発信するとともに、発生が懸念される南海トラフ巨大地震や首都直下地震を見据え、社会の総力をあげていかに危機に対処すべきか考える。

103　教訓活用研究事業

実施時期	通年	実施場所	神戸市内
主催者	ひょうご安全の日推進県民会議		

内容
今後の大規模災害に備えるため、阪神・淡路大震災及び最近の災害における災害対策の取組みの課題と成果について検証を行う。

104　「ひょうご災害ボランティア協働会議」
【県内で大規模災害がなく未実施】

実施時期	県内の大規模災害発災時	実施場所	－
主催者	ひょうごボランタリープラザ、兵庫県		

内容(予定)
県内の大規模災害時において、被災者ニーズや支援活動等の情報共有に向けて支援団体の活動を促す情報共有会議を実施する。(実施時期　発災直後：毎日、２週間後：隔日、１カ月後：週１回(概ね半年～２年))